

はじめに

三重大学教員免許状更新講習実施委員会委員長
富 樫 健 二

受講者数が例年の 1.7 倍と予想され、東紀州地域での講習も始まった平成 30 年度の教員免許状更新講習は、台風の影響が多少あったものの 10 月 21 日の講習をもって大きなトラブルなく全て無事に終了することができました。関係各位に心よりお礼申し上げます。

今年度の講習は総開設日数 27 日（昨年度 15 日）、必修講習が 17 講習（総定員 1,105 名）、選択必修講習が 32 講習（総定員 1,160 名）、選択講習 136 講習（総定員 3,605 名）、全定員で 5,870 名（昨年度の 1.41 倍）という過去最大規模での計画でした。最終的な受講者数の状況をみると、必修講習は 998 名（定員充足率 90.3%）、選択必修講習は 935 名（90.6%）、選択講習は 2,900 名（80.4%）という結果で（総受講者数 4,833 名、昨年度の 1.56 倍）、講師の先生方に講習担当日数や 1 講習あたりの受講者数を増やしていただいたことにより乗り切ることができました。

今年度より始まった東紀州地域の講習においても計 12 講習が開設され、268 名の先生方が受講しました。昨夏は台風来襲が多く、雨の多い東紀州地域での講習は休講の心配もありましたが、担当講師の臨機応変な対応や東紀州教育学舎の先生方のご尽力により大成功に終えています。受講された先生方からは「津まで行かなくてよくなったので助かった」、「来年度も是非開催して欲しい」といった意見が多数聞かれました。この声に応えるため、次年度も東紀州地域での講習を継続する予定です。

免許状更新講習は、各講習について受講者から事後評価を受け、「I. 講習の内容・方法についての総合的な評価」、「II. 最新の知識・技能の習得の成果についての総合的な評価」、「III. 講習の運営面についての評価」の結果について文科省に報告することが義務付けられています。I. については、「よい・だいたいよい」とする評価が必修で 95.7%、選択必修で 97.6%、選択で 96.5%であり例年とほぼ同等でしたが、「よい」のみに限ると必修では 54.7%から 61.9%へ、選択必修では 65.0%から 69.7%へと増加し、講習が始まった平成 21 年度から年々「よい」の割合が増えてきています。一方で、選択では「良い」、「だいたい良い」の合計は昨年度と今年度で大きく変わりませんが、「良い」だけの割合でみると昨年度 70.3%から 65.7%へと減少しました。三重大学の選択講習は教育学部だけではなく全学部で協力しながら行っており、バリエーション豊富なことが特徴になっています。こうしたバリエーション、つまり専門性の高さゆえ、現場の教育との関連性が受講生の方に見えにくくなっているのかも知れません。今後講習方法・内容、運営面の改善に取り組む必要があると思います。

昨年度、駐車場に関するアンケートを行ったところ、有料であっても車で来たいと答えた受講生が 70%程度いました。その結果をふまえ今年度は附属病院の駐車場利用に関して検討し、来年度は土日に限り教職員用の駐車場を使用できることになりました。有料ではありますが受講者の利便性が少しでも高まることを期待しています。

平成 21 年度から始まった講習も今年度で第 10 グループが終了し、来年度から一度講習を受けた先生方が再度受講するようになります。教育の世界も 10 年で大きく変わっていますので、三重大学の免許状更新講習を受けたことによって最新の知識、技能を身につけることができたと言ってもらえるよう引き続き皆様のご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

I 事業の流れ

1 平成 30 年度の更新講習への取り組みとその概要

本年度は、制度設計上の都合により全国的に受講対象者が 1.7 倍と予想されており、本学においても昨年度までの受講状況を踏まえ、受講定員数を昨年度の 1.4 倍程度（4,159 人→5,870 人）に増員した。

また、平成 30 年度より東紀州地域において、主に東紀州サテライト東紀州教育学舎を活用して更新講習を開設した。東紀州地域では必修講習を 2 講習、選択必修講習を 2 講習、選択講習を 8 講習の計 12 講習を開設し、東紀州地域で開設される講習のみで更新が可能となるようにした。

本年度は、必修講習が 17 講習（定員総計 1,105 名）、選択必修講習が 32 講習（連絡協議会主催講習分 2 講習を含む。定員総計 1,160 名）、選択講習が 136 講習（定員総計 3,605 名）開講された。必修講習は 1 講習あたり定員 55～110 名（開講形式や複数教員による分担あり）、選択必修講習は定員 20～50 名、選択講習は、講習内容の特性の点から定員 5 名から 120 名まであり、適正規模での定員数に配慮した。延べ受講者は、必修講習で 998 名（定員充足率^(注) 90.3%）、選択必修講習で 935 名（定員充足率 80.6%）、選択講習で 2,900 名（定員充足率 82.3%）であり、全体では 4,833 名が受講し、定員充足率は 82.3%だった。

必修講習は主に本学教育学部教員が分担し、実質の受講人数が 50 名程度になるように工夫して割り振りをした（教員により担当回数は異なる）。選択必修講習も本学教育学部教員が中心となり、実質の受講人数が 30～40 名程度になるよう割り振りに工夫した。昨年度から連絡協議会主催の講習は選択必修講習に位置づけられ、本大学が取りまとめ役となり、高田短期大学、鈴鹿短期大学、皇學館大学とともに 2 講習を開設した（1 講習定員 40 名で同日開催）。選択講習は、例年通り、本学教育学部の全教員と、医学部、工学部、生物資源学部、人文学部、教養教育院、地域人材教育開発機構、アドミッションセンター等の教員にも開講を依頼した。

本学は、受講者が必修講習で 1 つ、選択必修講習で 1 つ、選択講習で 3 つを受講できる体制を整えており、また、総合大学として、本事業に対する全学的な協力体制は本学の誇るべき特徴の一つであり、その結果、受講者のニーズに応じた多様なテーマの講習の提供が可能となっている。

本年度の講習のうち、定員充足率が 80%超える講習は 124 講習（67.0%）あり、昨年度（59.7%）と較べて高くなった。同時に、定員充足率が 30%以下の講習が 11 講習（5.9%）あったが、昨年度（10.7%）と比べると減少した。その理由として本年度より再募集に加え、再々募集を実施したことが大きな要因だと考えられる。また、わかりやすい講習名を意識してつけたことや、講習内容の点から適正規模の定員を設定したことが大きいと考えられる。引き続き受講者数の確保に努め、充足率の向上を目指していく。

受講者による評価を見ると、本年度の「本講習の内容・方法についての総合的な評価」は、必修講習全体で [よい] 62%、[だいたいよい] 34%、合わせて 96%、選択必修講習全体で [よい] 70%、

「だいたいよい」28%、合わせて98%、選択講習全体では「よい」66%、「だいたいよい」31%、合わせて97%と、昨年度と同程度の値を示した。また、「最新の知識・技能の習得の成果」に関しては、必修講習全体で「よい」59%、「だいたいよい」38%、合わせて97%、選択必修講習全体で「よい」63%、「だいたいよい」35%、合わせて98%、選択講習全体では「よい」60%、「だいたいよい」36%、合わせて96%と、これも昨年度と同程度の値を示した。

「講習の運営面」に関しては、必修講習全体で「よい」60%、「だいたいよい」35%、合わせて95%、選択必修講習全体で「よい」62%、「だいたいよい」34%、合わせて96%、選択講習全体では「よい」62%、「だいたいよい」35%、合わせて97%を示した。昨年度（99%）に比べると若干低下したが、これは本年度、講習当日に台風が接近し、開催が危ぶまれた講習日が3日ほどあったことが影響していると考えられる。また、本学では受講者用の駐車場がないため、悪天候時でも自家用車が利用できず、公共交通機関を利用しなければならないことが受講者からの評価を下げている要因の1つであると考えられる。そのため、平成31年度は、試験的に附属病院職員駐車場を受講者用の駐車場とする予定で、受講者がより便利に講習を受講できるようにしていく。

（注）定員充足率は定員に対する受講申込者の割合で示した。

2 教員免許状更新講習実施委員会・運営部会・企画部会活動の記録

【教員免許状更新講習実施委員会】

- ・ 第1回 平成31年1月10日（木）
議題
 - ・ 教員免許状更新講習開催時の附属病院職員駐車場の利用について
 - ・ 平成30年度三重大学教員免許状更新講習実施報告について
 - ・ 平成31年度三重大学教員免許状更新講習開設計画（案）について

【教員免許状更新講習運営部会】

- ・ 第1回 平成30年4月18日（水）
議題
 - ・ 業務内容について
 - ・ 委員会開催日（案）について
 - ・ 平成30年度役割分担（案）について
 - ・ 平成30年度運営方法について
 - ・ 平成30年度講習開催日・開催計画について
 - ・ 講習運営スタッフの割り振りについて
 - ・ 講習が休講になった場合の取扱いについて
 - ・ 講習開設準備状況について
 - ・ 事業評価について
 - ・ 平成30年度講習補助員計画について（運営補助員スタッフ募集）
 - ・ 平成29年度事業報告書等の配布について
- ・ 第2回 平成30年5月16日（水）
議題
 - ・ 当日運営スタッフ業務について
 - ・ 平成30年度東紀州地域更新講習担当講師説明会について
- ・ 第3回 平成30年7月18日（水）
議題
 - ・ 平成30年度教員免許状更新講習開設状況について
 - ・ 三重県内教員免許状更新講習実施状況について
 - ・ 平成30年度教員免許状更新講習6月開設講習履修判定について
 - ・ 教員免許状更新講習運営部会・企画部会の実施体制の見直しについて
 - ・ 講習中のiPadの使用について
 - ・ 講習開始直前に講習が中止になった場合の対応について
- ・ 第4回 平成30年8月22日（水）
議題
 - ・ 平成30年度教員免許状更新講習開設状況について
 - ・ 履修認定試験の成績開示について
 - ・ 教員免許状更新講習運営部会・企画部会の実施体制の見直しについて
 - ・ 講習中のiPadの使用について
 - ・ 台風12号による講習当日・講習後の対応について
 - ・ 平成30年度教員免許状更新講習7月開設講習履修判定について
 - ・ 教員免許状更新講習事業報告書の作成について
- ・ 第5回 平成30年9月19日（水）
議題
 - ・ 平成30年度教員免許状更新講習開設状況について
 - ・ 履修認定試験の成績開示について
 - ・ 台風20号による講習当日・講習後の対応について

- ・平成30年度教員免許状更新講習8月開設講習履修判定について
- ・平成31年度教員免許状更新講習実施計画（案）について
- ・平成31年度講師選出依頼について
- ・教員免許状更新講習シンポジウムの開催について

- ・第6回
議題 平成30年10月17日（水）
 - ・平成30年度教員免許状更新講習開設状況について
 - ・平成31年度教員免許状更新講習開設予定について
 - ・平成30年度の東紀州地域更新講習について
 - ・第4教育端末室のPowerPointが使用できなかった件について
 - ・履修認定試験の成績証明開示請求について
 - ・平成29年度事後評価結果について
 - ・平成30年度教員免許状更新講習9月開設講習履修判定について
 - ・平成30年度の予算配分について
 - ・平成30年度の予算配分について
- ・第7回
議題 平成30年11月21日（水）
 - ・平成31年度東紀州地域更新講習の状況について
 - ・平成30年度10月開講講習履修判定について
 - ・平成31年度教員免許状更新講習実施計画について
 - ・平成30年度の予算配分について
 - ・受講料返還・振替の該当理由について
 - ・受講者の附属病院職員駐車場の利用について
 - ・受講者評価書の自由記述の内容について
- ・第8回
議題 平成30年12月19日（水）
 - ・平成29年度第3四半期報告について
 - ・平成31年度教員免許状更新講習実施計画について
- ・第9回
議題 平成31年1月16日（水）
 - ・平成31年度教員免許状更新講習開設予定（案）について
 - ・教員免許状更新講習開催時の附属病院職員駐車場の利用について
 - ・予算振替について
- ・第10回
議題 平成31年3月7日（水）
 - ・平成29年度教員免許状更新講習実施報告について
 - ・平成30年度教員免許状更新講習実施計画について

【教員免許状更新講習企画部会】

- ・第1回 平成30年4月18日（金）
運営部会と合同開催
- ・第2回
議題 平成30年5月16日（水）
 - ・附属学校園教員の受講申請について
 - ・担当者会議について
 - ・講習補助員説明会について
 - ・講習申し込み状況について

- ・ 第3回 平成30年6月20日（水）
議題
 - ・ 講習キャンセル・受講料返還等について
 - ・ 平成30年度事業報告書の作成について
 - ・ 講習申し込み状況について
- ・ 第4回 平成30年7月18日（水）
議題
 - ・ 講習振替・受講料返還について
 - ・ 教材費について
- ・ 第5回 平成30年8月24日（木）
議題
 - 休会
- ・ 第5回 平成30年9月19日（水）
議題
 - ・ 2019年度講習実施計画について
 - ・ 講習振替・受講料返還について
 - ・ 2019年度開設予定表について
- ・ 第6回 平成30年10月17日（水）
議題
 - ・ 講習振替・受講料返還について
 - ・ 必修・選択必修担当者会議について
 - ・ 2019年度における免許状更新講習の開設予定調査について
- ・ 第7回 平成30年11月21日（水）
議題
 - ・ 教員免許状更新講習非常勤講師について
 - ・ 開設計画について
- ・ 第8回 平成30年12月19日（水）
議題
 - ・ 平成31年度募集要項（案）について
- ・ 第11回 平成31年1月17日（水）
 - ・ 教員紹介のページについて
- ・ 第12回 平成31年3月22日（水）
 運営部会と合同開催

Ⅱ 平成30年度の講習

1 講習の概要と当日のスケジュール

（１）必修領域

必修領域の内容は、文部科学省の指定する4項目を実施した。

- A 国の教育施策や世界の教育の動向
- B 教員としての子ども観、教育観等についての省察
- C 子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見（特別支援教育に関するものを含む。）
- D 子どもの生活の変化を踏まえた課題

（２）選択必修領域

選択必修領域は、文部科学省の指定する以下の12領域を実施した。

- ①学校を巡る近年の状況の変化
- ②学習指導要領の改訂の動向等
- ③様々な問題に対する組織的対応の必要性
- ④学校における危機管理上の課題
- ⑤教科横断的な視点からの教育活動の改善を支える教育課程の編成、実施、評価及び改善の一連の取組
- ⑥学習指導要領等に基づき育成すべき資質及び能力を育むための習得、活用及び探求の学習過程を見通した指導法の工夫及び改善
- ⑦教育相談（いじめ及び不登校への対応を含む。）
- ⑧進路指導及びキャリア教育
- ⑨学校、家庭及び地域の連携及び協働
- ⑩英語教育
- ⑪国際理解及び異文化理解教育
- ⑫教育の情報化（情報通信技術を利用した指導及び情報教育（情報モラルを含む。）等）

（３）選択領域

選択領域の内容は、文部科学省の指定する以下の内容で実施した。

幼児、児童又は生徒に対する強化指導及び生徒指導上の課題

（４）当日のスケジュール

必修領域、選択必修領域、選択領域各々のスケジュールは、次のようなものであった。

①必修領域（２人体制）

受講者をクラスに分け、上述の４項目を２名の講師で分担し実施。１日の講習の日程を示す。

時間内容

9:00～11:50 講習 A
11:50～12:00 休憩
12:00～12:20 履修認定試験
12:20～13:20 昼食
13:20～16:10 講習 B
16:10～16:20 休憩
16:20～16:40 履修認定試験
16:40～ 受講者評価書記入

※小休憩等は講師の指示による

※講習（項目）の順番はクラスによって異なる

②必修領域（１人体制）、選択必修領域、選択領域

多くの講義は６時間を１名の教員が担当するものであったが、一部は複数名で分担する講義もあった。１日の講習の日程を示す。（講習によっては、異なるスケジュールとなる場合もあった。）

時間内容（必修講習（２人体制）など一部を除く）

9:00～11:50 講習（途中１０分の小休憩を含む）
11:50～13:00 昼休み
13:00～15:50 講習（途中１０分の小休憩を含む）
15:50～16:00 休憩
16:00～16:40 履修認定試験（実技試験の場合は１６：４０まで講習）
16:40～ 受講者評価書記入

※小休憩等は講師の指示による

2 開設講習

（１）開設講習数

平成３０年度は必修領域（６時間）を１７講習、選択必修領域（６時間）を３２講習、選択領域（６時間）を１３６講習計画した。また、三重県連絡協議会主催の選択必修領域（６時間）を２講習各定員４０人規模で計画した。

（２）担当講師

必修講習は、教育学部教員、一部学外からの非常勤講師にも依頼した。

選択必修講習は、教育学部を中心に一部学外からの非常勤講師にも依頼した。

選択講習は、教育学部を中心に、人文学部、医学部、工学部、生物資源学部、教養教育院の教員、一部学外からの非常勤講師にも依頼した。

（３）開講時期

平成２９年度は、６月２日から１０月２１日までの週末および夏期休暇中心に開設した。

（４）講習会場

三重大学上浜キャンパス、東紀州サテライト東紀州教育学舎、三重県立紀南高等学校、三重県立特別支援学校東紀州くろしお学園おわせ分校で開設した。

（５）講習が休講となった場合の取り扱いについて

平成３０年度は、休講措置をとった場合の予備日を設定しなかった。

選択講習については、１講習受講申込み者が無かったため開講しなかった。

（６）受講申込者が極めて少数の講習の取り扱いについて

平成２９年度に引き続き、受講申込みが極めて少数という講習があったが、受講者の要望に応えるものとして、開講した。

（７）開設講習一覧

次頁に開設講習の一覧を実際の履修認定者数等の情報も加えて掲載する。

【上浜キャンパス】平成30年度三重大学教員免許状更新講習開設結果

開設日	講習 (クラス) 数	区分	講習名	学部	講師名	定員	受講申 込者数	履修認定 対象職種	主な受講対象者	試験の 方法
6月10日 日	1	必(1)	教育の最新事情1	教	菊池 紀彦	55	54	教諭・養護教諭・ 栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記
	2	選必	三重県の特別支援教育の課題	教	郷右近 歩	20	19	教諭・養護教諭・ 栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記
	10	選	参加型アクティブラーニングのためのICT 学習利用	教	須曾野 仁志	40	39	教諭・養護教諭・ 栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記
			平家物語の人物造型 ―清盛・重衡・宗 盛・知盛―	教	松本 昭彦	25	12	教諭	中学校・高等学校の国語科担当教諭	筆記
			図形と数の話	教	新田 貴士	45	17	教諭	小学校の算数担当教諭、中学校・高等学校の数学科担当教諭	筆記
			小中学校における教材生物の取扱いと観 察・実験	教	後藤 太一郎	16	15	教諭	小学校・中学校の理科担当教諭	筆記
			小学校音楽科の授業づくり	教	川村 有美	40	40	教諭	小学校教諭	筆記
			造形表現法の探求(対話としての表現・重 ね刷り版画制作)	教	山田 康彦	20	20	教諭	幼稚園教諭、小学校の図工担当教諭、中学校・高等学校・特別支援学 校の美術科担当教諭	実技
			学びの基盤を育む運動(遊び)	教	加納 岳拓	70	69	教諭	幼稚園・小学校の教諭	筆記
			電気おもしろものづくり	教	松岡 守・加藤 進	15	15	教諭	小学校・中学校の教諭	筆記
			小学校における食育の実践	教	磯部 由香	30	8	教諭・養護教諭	小学校の教諭及び養護教諭	筆記
			幼稚園・保育園等による保育相談の現状 とその対応について	教	須永 進	15	12	教諭	幼稚園教諭	筆記
			子どものコミュニケーション能力を育てる	教	松浦 均・中西 良文	60	61	教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭	筆記
			必要に応じて英語の授業を英語で行う技 法	教	早瀬 光秋	20	16	教諭・養護教諭・ 栄養教諭	中学校・高等学校の英語科担当教諭	筆記
			日本語教育学入門 一年少者への指導を 中心に	教	服部 明子	28	26	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び養護教諭	筆記
6月16日 土	9	選	解析学を楽しむ ―級数、積分の広がり	教	川向 洋之・肥田野 久二男	20	7	教諭	中学校・高等学校の数学科担当教諭	筆記
	9	選	造形表現法の探求(対話としての表現・重 ね刷り版画制作)	教	山田 康彦	20	20	教諭	幼稚園教諭、小学校の図工担当教諭、中学校・高等学校・特別支援学 校の美術科担当教諭	実技
			体づくり運動について	教	後藤 洋子	20	20	教諭	幼稚園教諭、小学校・中学校・高等学校の体育・保健体育科担当教諭	実技
			重症心身障害児の療育	教	郷右近 歩	20	20	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び養護教諭	筆記
			幼稚園・保育園等による保育相談の現状 とその対応について	教	須永 進	15	14	教諭	幼稚園教諭	筆記
			子どものコミュニケーション能力を育てる	教	松浦 均・中西 良文	60	56	教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭	筆記
			化学マスター講座 ―生活の中の触媒化 学―	工	薩摩 篤	20	0	教諭	高等学校の化学担当教諭	筆記
			理科実験―物質の熱的性質	生	田中 晶善	20	8	教諭	小学校・中学校・高等学校の教諭	その他
	1	必(2)	教育の最新事情2	教	富田 昌平・大日方 真史	110	107	教諭・養護教諭・ 栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及 び栄養教諭	筆記
	2	選必	授業づくりの基礎・基本―「めあて」から 「ふりかえり」まで―	教	森脇 健夫	30	29	教諭・養護教諭・ 栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及 び栄養教諭	筆記
	5	選	教育相談～学校のチーム支援～	非	加藤 裕子	40	40	教諭・養護教諭・ 栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及 び栄養教諭	筆記
			魅惑の数「黄金比と円周率」	教	玉城 政和・森山 貴之	15	7	教諭	中学校・高等学校の数学科担当教諭	筆記
			鑑賞教育(美術)	教	山口 泰弘	18	9	教諭	中学校・高等学校の美術科担当教諭	筆記
			乳幼児期の社会性の発達とその支援	教	吉田 真理子	30	29	教諭	幼稚園教諭	筆記
			学校でのストレス・マネジメント	医	望木 郁代	50	50	教諭・養護教諭	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び養護教諭	筆記
			学校組織と教育の新しいデザイン	地人	山本 裕子	20	14	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び養護教諭	その他
6月23日 土	1	必(2)	教育の最新事情3	教	須曾野 仁志・伊藤 敏子	110	99	教諭・養護教諭・ 栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及 び栄養教諭	筆記
	3	選必	三重県の特別支援教育の課題	教	郷右近 歩	20	21	教諭・養護教諭・ 栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及 び栄養教諭	筆記
	7	選	学校・家庭・地域の望ましい関係を探る	教	大日方 真史	50	48	教諭・養護教諭・ 栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及 び栄養教諭	筆記
			不登校の理解と対応	教養	瀬戸 美奈子	40	21	教諭・養護教諭・ 栄養教諭	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教 諭	筆記
			中国語会話入門	人	荒井 茂夫	30	27	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び養護教諭	筆記
			清朝の統治構造と現代中国	教	大坪 慶之	25	11	教諭	小学校・中学校・高等学校の社会科、地理歴史科担当教諭	筆記
			学校教育におけるゴルフの取り上げ方と 活動の工夫	教	鶴原 清志	30	24	教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の保健体育科教諭	実技
			電気おもしろものづくり	教	松岡 守・加藤 進	15	15	教諭	小学校・中学校の教諭	筆記
			VBAによるプログラミング入門	教	萩原 克幸	20	18	教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭	筆記
			乳幼児期の社会性の発達とその支援	教	吉田 真理子	30	29	教諭	幼稚園教諭	筆記
			巨大地震・津波災害にそなえる防災教育	工	畑中 重光・花里 利一・ 川口 淳	30	29	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び養護教諭	筆記
6月24日 日	1	必(1)	教育の最新事情4	教	栗田 季佳	55	48	教諭・養護教諭・ 栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及 び栄養教諭	筆記
	3	選必	授業づくりの基礎・基本―「めあて」から 「ふりかえり」まで―	教	森脇 健夫	30	28	教諭・養護教諭・ 栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及 び栄養教諭	筆記
	3	選	参加型アクティブラーニングのためのICT 学習利用	教	須曾野 仁志	40	40	教諭・養護教諭・ 栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及 び栄養教諭	筆記
			教育相談～学校のチーム支援～	非	加藤 裕子	40	33	教諭・養護教諭・ 栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及 び栄養教諭	筆記
	4	選	小中学校における教材生物の取扱いと観 察・実験	教	後藤 太一郎	16	14	教諭	小学校・中学校の理科担当教諭	筆記
	4	選	美術教育の為の素材演習/石膏レリーフ 制作	教	奥田 真澄	12	12	教諭	中学校の美術科担当教諭	その他
			海の哺乳類の生活と人との関係	生	吉岡 基	20	20	教諭	中学校・高等学校の教諭	筆記
			「学び方」を学ぶ～学習意欲をデザインす るARCSモデルを参考に～	アド	宮下 伊吉	40	3	教諭・養護教諭	中学校・高等学校の教諭及び養護教諭	筆記
			教育の最新事情5	教	松浦 直己	55	54	教諭・養護教諭・ 栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及 び栄養教諭	筆記
	2	選必	学習指導要領はどう変わったのか	教	佐藤 年明	60	25	教諭・養護教諭・ 栄養教諭	小学校教諭	筆記
6月30日 土	9	選	児童が楽しんで学べる外国語活動・外国 語指導法	教	大野 恵理	30	30	教諭・養護教諭・ 栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及 び栄養教諭	筆記
			中学・高校の現代文定番教材を読みなお す	教	和田 崇	24	18	教諭	中学校・高等学校の国語科担当教諭	その他
			解析学を楽しむ ―級数、積分の広がり	教	川向 洋之・肥田野 久二男	20	5	教諭	中学校・高等学校の数学科担当教諭	筆記
	9	選	教員のための磁石と磁界に関する基礎実 験	教	牧原 義一	15	12	教諭	小学校・中学校・高等学校の理科担当教諭	筆記
			映像メディア表現(図工・美術)	教	上山 浩	20	16	教諭	小学校の図画工作担当教諭、中学校・高等学校の美術科担当教諭	実技
			学校教育におけるゴルフの取り上げ方と 活動の工夫	教	鶴原 清志	30	27	教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の保健体育科教諭	実技
			子どもの発達段階に即したもののづくり教育 の提案	教	魚住 明生	16	16	教諭	幼稚園の表現担当教諭、小学校の生活科・図画工作科担当教諭、中学 校の技術・家庭科(技術分野)担当教諭	筆記
			Hyper-Vを使ってみよう	教	丁 亜希	20	3	教諭	中学校・高等学校の教諭	筆記
			重症心身障害児の療育	教	郷右近 歩	20	20	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び養護教諭	筆記
			学校・学級・家族の思い出をまとめるフォト ムービーの制作	教	須曾野 仁志	50	50	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び養護教諭	その他

7月1日 日	1	必(1)	教育の最新事情6	教	須曾野 仁志・南 学	110	80	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記
	2	選必	「チームとしての学校」を考える～多忙化の解消・同僚性の構築・新たなリーダーシップ～	教	織田 泰幸	40	21	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記
			節目でキャリアをデザインする方法	学	長谷川 岳雄	40	15	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記
			財政の役割と課税	人	森 俊一	10	7	教諭	中学校・高等学校の社会科担当教諭	筆記
	6	選	枕草子を読む	教	松本 昭彦	25	18	教諭	中学校・高等学校の国語科担当教諭	筆記
			魅惑の数「黄金比と円周率」	教	玉城 政和・森山 貴之	15	11	教諭	中学校・高等学校の数学科担当教諭	筆記
			図工・美術教育のための素材演習/アクリル表現のバリエーション	教	関 俊一	12	12	教諭	幼稚園教諭、小学校の図工担当教諭、中学校・高等学校・特別支援学校の美術科担当教諭	その他
			「学び方」を学ぶ～学習意欲をデザインするARCSモデルを参考に～	アド	宮下 伊吉	40	11	教諭・養護教諭	中学校・高等学校の教諭及び養護教諭	筆記
			小学校における英語教育の方法と実践	非	エスクデロ ロベルト カルロス	20	20	教諭	小学校・中学校の教諭	口頭
7月7日 土	1	必(2)	教育の最新事情7	教	須曾野 仁志・伊藤 敏子	110	69	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記
	3	選必	三重県の特別支援教育の課題	教	郷右近 歩	20	19	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記
			学習心理学から考える協同的アクティブラーニング	教	中西 良文	60	52	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記
			様々な問題に対する組織的対応	教	瀬戸 健一	40	3	教諭・養護教諭・栄養教諭	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記
	7	選	書写指導の内容と実技	教	林 朝子	36	34	教諭	小学校教諭、中学校の国語科担当教諭	筆記
			公民経済分野の基礎と要点	教	内田 秀昭	12	11	教諭	中学校・高等学校の社会科担当教諭	筆記
			コンピューター(Mac)によるマークデザイン	教	岡田 博明	12	11	教諭	小学校・中学校・高等学校の図工・美術担当教諭	実技
			バレーボールの指導法について	教	大隈 節子	24	24	教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校の保健体育科担当教諭	実技
			中学校英語教科書を英語学の立場から検討する	教	西村 秀夫	20	15	教諭	中学校・高等学校の英語科担当教諭	筆記
			はじめてのゲーミング	教	南 学	35	32	教諭	小学校・中学校・高等学校の教諭	筆記
			教育の諸相と児童・生徒理解	非	益川 優子	20	16	教諭	小学校・中学校・高等学校の教諭	筆記
7月22日 日	1	必(1)	教育の最新事情8	教	菊池 紀彦	55	56	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記
	2	選必	児童が楽しんで学べる外国語活動・外国語指導法	教	大野 恵理	30	30	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記
			節目でキャリアをデザインする方法	学	長谷川 岳雄	40	19	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記
	8	選	自然地理学の基礎	教	宮岡 邦任	12	13	教諭	小学校社会科、中学校社会科地理、小学校・中学校・高校社会科教員で地理が苦手な方	筆記
			現代政治教育の諸問題	教	馬原 潤二	16	6	教諭	中学校・高等学校の社会科担当教諭	その他
			算数の素養	教	中西 正治	30	29	教諭	小学校教諭	筆記
			「鑑賞教育の学習効果について」～学習指導要領の改訂を受けて～	教	兼重 直文	30	29	教諭	小学校・中学校・高等学校の音楽科担当教諭	筆記
			家庭科における「消費生活・環境」の授業づくり	教	吉本 敏子	60	20	教諭	小学校・中学校・高等学校の家庭科担当教諭	筆記
			英詩入門	教	宮地 信弘	15	8	教諭	中学校・高等学校の英語科担当教諭	筆記
			性(sexuality)を学ぶとは何をするのか？～小学校を中心に～	教	佐藤 年明	20	20	教諭・養護教諭	小学校の教諭及び養護教諭	筆記
			学校保健	医	三谷 義英・菅 秀・長尾 みづほ・山川 紀子	55	55	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び養護教諭	筆記
7月29日 日	1	必(1)	教育の最新事情9	教	栗田 季佳	55	54	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記
	2	連絡協議会選必	法令改正及び国の審議会の状況・学校を巡る近年の状況の変化	非	新田 均・坪井 守	40	6	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記
			アクティブラーニングにおけるICT(情報通信技術)の活用	学	鷲尾 敦・下村 勉	40	40	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記
			多文化共生を視野に入れた異文化理解の授業	教	永田 成文	30	26	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記
	8	選	整数と無限小数	教	露峰 茂明	20	10	教諭	中学校・高等学校の数学科担当教諭	筆記
			身近な植物観察と学校におけるその実践方法	教	平山 大輔	34	33	教諭	小学校・中学校の理科担当教諭	筆記
			小学校におけるプログラミング教育 ～はじめのいっぽ～	教	中西 康雅	10	10	教諭	小学校・中学校の教諭	筆記
			統計学入門	教	奥村 晴彦	70	21	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び養護教諭	その他
			リーディングとライティングのインターフェース	教	西村 秀夫	20	14	教諭	中学校・高等学校・特別支援学校の英語科担当教諭	筆記
			野菜を好きになってたくさん食べよう	生	齋藤 俊彰	50	50	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び養護教諭	筆記
			子どもの運動と健康	教養	富樫 健二	20	20	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び養護教諭	筆記
			学級内外の生徒指導と教師の役割―被虐待児対応との関連で―	非	蓮尾 直美・鈴木 聡	30	30	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び養護教諭	筆記
8月20日 月	1	必(1)	教育の最新事情10	教	須曾野 仁志	55	52	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記
	2	選必	学校における危機管理について	教	松浦 均	40	40	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記
			学校におけるキャリア教育と起業家教育	非	山根 栄次	40	39	教諭・養護教諭・栄養教諭	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	その他
	9	選	論理トレーニング	教	秋元 ひろと	25	25	教諭	小学校・中学校・高等学校の教諭	筆記
			小中学校の化学実験	教	市川 俊輔	20	20	教諭	小学校・中学校の理科担当教諭	実技
			最適設計を取り入れたものづくり教材	教	松本 金矢	20	14	教諭	小学校の生活・総合担当教諭、中学校・高等学校・特別支援学校の技術・工業科担当教諭	筆記
			3次元着装シミュレーションによる衣服設計と選択	教	増田 智恵	10	9	教諭	小学校教諭、中学校・高等学校の家庭科担当教諭	筆記
			英詩入門	教	宮地 信弘	15	8	教諭	中学校・高等学校の英語科担当教諭	筆記
			ディベート入門Ⅰ	教	佐藤 年明	12	12	教諭	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭	筆記
			アクティブ・ラーニング TBL(Team-Based Learning)体験	教養	太城 康良	20	19	教諭・養護教諭	小学校・中学校・高等学校の英語科・数学科・国語科・理科・社会科担当教諭及び養護教諭	その他
			学力の三要素を考える―思考力の育成を中心に―	地人	久保田 祐歌	20	14	教諭	中学校・高等学校の教諭	筆記
			「教えない授業」を学ぶ～能動的な学習を支えるGBS理論を用いて～	アド	宮下 伊吉	40	26	教諭・養護教諭	中学校・高等学校の教諭及び養護教諭	筆記
8月24日 金	1	必(1)	教育の最新事情11	教	松浦 直己	55	54	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記
	2	選必	多文化共生を視野に入れた異文化理解の授業	教	永田 成文	30	28	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記
			他教科等の関連を図る「特別な教科 道徳」の授業づくり	教	市川 則文	30	30	教諭・養護教諭・栄養教諭	小学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	その他
	11	選	音声の「見える化」を取り入れた英語学習	人	服部 範子	12	12	教諭	小学校の英語担当教諭、中学校・高等学校の英語科担当教諭	その他
			河川の自然と文化―治水に焦点をあてて―	教	荻原 彰	20	14	教諭	小学校・中学校・高等学校の理科・社会科系担当教諭	筆記
			理科の授業に役立つ科学教育シミュレーション	教	國仲 寛人	14	9	教諭	小学校・中学校・高等学校の理科担当教諭	筆記
			音楽のしくみと表現	教	森川 孝太朗	42	42	教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の音楽科担当教諭	その他
			幼児・児童の体力・運動能力の向上と発育発達	教	八木 規夫	24	23	教諭	幼稚園教諭、小学校の保健体育科担当教諭	筆記
			「学びの共同体」の理念に基づいた小学校体育の授業デザイン	教	岡野 昇	40	31	教諭	小学校教諭	筆記
			VBAによるプログラミング入門	教	萩原 克幸	20	20	教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭	筆記
			溺水・熱中症・窒息・インフルエンザ・救命処置	医	丸山 一男	120	119	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び養護教諭	筆記
			環境教育のための森林、木材の話	生	石川 知明	20	20	教諭	小学校・中学校の教諭	筆記
			社会科・公民科の授業における新聞活用(NIE)	非	山根 栄次	20	19	教諭	小学校・中学校・高等学校の社会科・公民科・地理歴史科担当教諭	その他
			子どもから大人まで楽しく学べるビジュアル・プログラミング	非	下村 勉	20	20	教諭	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭(教科を問わず活用できます。)	筆記
8月30日 木	1	必(1)	教育の最新事情12	教	松浦 直己	55	55	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記
	1	選必	教員のためのインストラクショナルデザインとカリキュラムマネジメント	教	須曾野 仁志	40	37	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記
			学習者(国語教育・日本語教育)の初期教育における文字表記の問題点と指導法	教	余 健	25	25	教諭・養護教諭	幼稚園教諭、小学校・中学校・特別支援学校の国語科担当教諭及び養護教諭	筆記
	7	選	中学校数学科教材研究―2学期の授業から使える手作り教具―	教	田中 伸明	45	14	教諭	中学校の数学科担当教諭	筆記
			小中学校の化学実験	教	市川 俊輔	20	20	教諭	小学校・中学校の理科担当教諭	実技
			小学校におけるプログラミング教育 ～はじめのいっぽ～	教	中西 康雅	10	10	教諭	小学校・中学校の教諭	筆記
			コンピューターハードウェアの基礎	教	山守 一徳	35	34	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び養護教諭	実技
			逐語記録(社会科・生活科等)による授業分析入門と授業改善	教	市川 則文	30	10	教諭	小学校の教諭、中学校の社会科担当教諭	その他
			アクティブ・ラーニング クリッカー&ブラカード体験	教養	太城 康良	20	20	教諭・養護教諭	小学校・中学校・高等学校の英語科・数学科・国語科・理科・社会科担当教諭及び養護教諭	その他

9月8日 土	1	選必	子ども理解からはじまる幼児教育・保育	教 富田 昌平	50	50	教諭・養護教諭・ 栄養教諭	幼稚園・小学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記
	5	選	学習者(国語教育・日本語教育)の初期教育における文字表記の問題点と指導法	教 余 健	25	24	教諭・養護教諭	幼稚園教諭、小学校・中学校・特別支援学校の国語科担当教諭及び養護教諭	筆記
			幼児・児童の体力・運動能力の向上と発育発達	教 八木 規夫	24	23	教諭	幼稚園教諭、小学校の保健体育科担当教諭	筆記
			障害とは何か	教 栗田 季佳	40	40	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び養護教諭	筆記
			ディベート入門Ⅱ	教 佐藤 年明	12	8	教諭	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭	筆記
			コンピュータのしくみ	工 高瀬 治彦・山村 直紀	20	15	教諭	中学校・高等学校の教諭	筆記
9月29日 土	1	必(1)	教育の最新事情13	教 松浦 直己	55	53	教諭・養護教諭・ 栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記
	7	選	これからの読解力を育てる小学校国語科の授業	教 守田 庸一	55	33	教諭	小学校教諭	筆記
			小学校で使える地学	教 伊藤 信成・栗原 行人	25	2	教諭	小学校の教諭	その他
			生きたリズムのしくみ	教 小畑 真梨子	14	15	教諭	幼稚園教諭、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の音楽科担当教諭	実技
			最適設計を取り入れたものづくり教材	教 松本 金矢	20	2	教諭	小学校の生活・総合担当教諭、中学校・高等学校・特別支援学校の技術・工業科担当教諭	筆記
			米を科学する	教 磯部 由香・平島 円	40	23	教諭	小学校教諭、中学校の家庭科・理科担当教諭	筆記
			子どもを理解するための教育現場におけるコミュニケーション	医 西出 りつ子・井村 香積	48	47	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び養護教諭	筆記
			最新のおもしろ理科教材	工 小林 正	30	25	教諭	小学校・中学校・高等学校の理科担当教諭	筆記
10月6日 土	1	必(1)	教育の最新事情14	教 荒川 哲郎	55	49	教諭・養護教諭・ 栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記
	5	選	フィールドワークからみる三重県の姿	教 磯野 巧	15	18	教諭	小学校・中学校・高等学校の社会科系担当教諭	筆記
			子どもの学びにそくした理科の授業づくり	教 平賀 伸夫	16	16	教諭	小学校・中学校・高等学校の理科担当教諭	筆記
			体づくり運動について	教 後藤 洋子	20	19	教諭	幼稚園教諭、小学校・中学校・高等学校の体育・保健体育科担当教諭	実技
			家庭教育の理論と実践	教 林 未和子	25	25	教諭	小学校・中学校・高等学校の家庭科担当教諭	筆記
			プレゼンテーションの基本と教室での工夫	教 須曾野 仁志	35	35	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び養護教諭	筆記
10月13日 土	1	必(1)	教育の最新事情15	教 荒川 哲郎	55	54	教諭・養護教諭・ 栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記
	6	選	異文化間のコミュニケーション	人 藤本 久司	25	25	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び養護教諭	筆記
			戦国時代から江戸時代への移り変わりをどう教えるのか	教 藤田 達生	60	44	教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の社会科担当教諭	筆記
			自然地理学の基礎	教 宮岡 邦任	12	7	教諭	小学校社会科、中学校社会科地理、小学校・中学校・高校社会科教員で地理が苦手な方	筆記
			運動意欲を高める行動科学の手法	教 重松 良祐	30	30	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び養護教諭	筆記
			おいしく食べるとは？	教 平島 円	30	31	教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援の教諭	筆記
			何乗すると1になるか？何回繰り返すと元に戻るか？	教養 古関 春隆	5	5	教諭	中学校・高等学校の数学科担当教諭	筆記
			ADHD、自閉スペクトラム症、学習障害の理解と対応について	教 松浦 直己	40	41	教諭・養護教諭・ 栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記
10月21日 日	1	選必	生徒が英語を学ぶこととは	教 荒尾 浩子	18	14	教諭	中学校の英語科担当教諭	筆記
	5	選	生きたリズムのしくみ	教 小畑 真梨子	14	13	教諭	幼稚園教諭、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の音楽科担当教諭	実技
			子どもの運動と健康	教養 富樫 健二	20	21	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び養護教諭	筆記
			世界の教育事情	教養 下村 智子	40	40	教諭	小学校・中学校・高等学校の教諭	筆記
			「教えない授業」を学ぶ～能動的な学習を支えるGBS理論を用いて～	アド 宮下 伊吉	40	25	教諭・養護教諭	中学校・高等学校の教諭及び養護教諭	筆記
必修講習	15				1,045	938	89.8%		
選択必修講習	30				1,110	885	79.7%		
	(2)				80	46	57.5%		
選択講習	128				3,425	2,742	80.1%		
合計	173				5,580	4,565	81.8%		

必修講習(第Ⅰ期)	880	782	88.9%
選択必修講習(第Ⅰ期)	1,020	794	77.8%
選択講習(第Ⅰ期)	2,667	2,117	79.4%
合計(第Ⅰ期)	4,567	3,693	80.9%
必修講習(第Ⅱ期)	165	156	94.5%
選択必修講習(第Ⅱ期)	90	91	101.1%
選択講習(第Ⅱ期)	758	625	82.5%
合計(第Ⅱ期)	1,013	872	86.1%
必修講習(東紀州)	60	60	100.0%
選択必修講習(東紀州)	50	50	100.0%
選択講習(東紀州)	180	158	87.8%
合計(東紀州)	290	268	92.4%
必修講習(上浜+東紀州)	1,105	998	90.3%
選択必修講習(上浜+東紀州)	1,160	935	80.6%
選択講習(上浜+東紀州)	3,605	2,900	80.4%
合計(上浜+東紀州地域)	5,870	4,833	82.3%

上浜キャンパスと東紀州地域の講習の合計

区分	講習数	定員
必修講習	17	1,105
選択必修講習	32	1,160
選択講習	136	3,605
合計	185	5,870

3 受講者評価書

教育学部 中西 康雅

1. はじめに

教員免許状更新講習では、本年度もこれまで（平成21～29年度）と同様に講習受講後に受講者による受講者評価書（図1）への記入が行われた。本稿では、その評価項目への回答について分析した結果を報告する。

2. 方法

更新講習終了時に全受講者に対し受講者評価書（図1）を配布し、記入を依頼した。評価者の延べ人数は4,760名と昨年度と比較して約1,700名増加した。内訳は必修講習受講者976名、選択必修講習受講者931名、選択講習受講者2,853名だった。また、勤務校別の内訳は保育所・幼稚園勤務者898名、小学校勤務者1,657名、中学校勤務者716名、高等学校勤務者725名、特別支援学校勤務者279名、その他（教員経験者・教員採用予定者・教育委員会など行政での勤務者・無記入者など）485名であった。さらに職種別の内訳は教諭3,001名、講師518名、実習助手9名、養護教諭・養護助教諭162名、栄養教諭4名、保育士509名、その他（寄宿舍指導員、無記名者など）557名であった（いずれも延べ人数）。

評価項目数は「Ⅰ 本講習の内容・方法について」が6項目、「Ⅱ 本講習の成果について」が5項目、「Ⅲ 本講習の運営面（受講者数、会場、連絡等）について」は1項目の計12項目であった（図1参照）。これらの項目について、「4：よい（十分満足した・十分成果を得られた）」、「3：だいたいよい（満足した・成果を得られた）」、「2：あまり十分でない（あまり満足しなかった・あまり成果を得られなかった）」、「1：不十分（満足しなかった・成果を得られなかった）」の基準から該当するものを受講者に選択回答してもらった。また、評価については評価基準を段階で示し、わかりやすくなるように評価書を工夫した。評価は「4：よい」を4点、「3：だいたいよい」を3点、「2：あまり十分でない」を2点、「1：不十分」を1点として項目ごとに平均値と標準偏差を求めた。さらに、評価項目ⅠとⅡについては、平成22年度から今年度まで同じ質問内容の項目について受講者評価の平均値の経年変化についても検討した。各評価項目の評価の差については χ^2 検定により有意差検定を行った。有意水準は5%未満とした。

3. 結果

3-1. 必修講習、選択必修講習および選択講習における受講者評価の平均値と点数の分布

表1に本年度の受講者全体、必修講習受講者、選択必修講習受講者および選択講習受講者による評価項目Ⅰ-1からⅢ-1までの全12項目（図1参照）の平均値と標準偏差を示す。それぞれの受講者による平均値は全評価項目の合計で約3.57点、項目別においても3.43点以上で（表1）、評価点は良かった。標準偏差の値は0.56～0.89程度であり（表1）、評価にほとんどばらつきはなかった。

教員免許状更新講習受講者評価書

開設者	国立大学法人三重大学	受講日	
講習名			
講師			

本評価は今後の免許状更新講習の改善と受講者への情報提供のために行われるものであり、あなたの履修認定に係る評価には一切影響を与えません。

◎ あなたの所属する学校種・職名について記入してください。

学校種等 ※○印を付けてください。	幼・小・中・高・特別支援 教育委員会など行政機関・保育園（所） 教員採用内定（見込み）者・教員勤務経験者 その他	職名	
----------------------	---	----	--

◎ 以下のⅠ～Ⅲの評価項目について、下の評価基準に即して該当する番号に○印をつけてください。

4	3	2	1
よい	だいたいよい	あまり十分でない	不十分
〔十分満足した 十分成果を得られた〕	〔満足した 成果を得られた〕	〔あまり満足しなかった あまり成果を得られなかった〕	〔満足しなかった 成果を得られなかった〕

Ⅰ 本講習の内容・方法について

I-1	学校現場が直面する諸状況や教員の課題意識を反映して行われていた。	4	3	2	1
I-2	講習のねらいや到達目標が明確であり、講習内容はそれらに即したものであった。	4	3	2	1
I-3	受講生の学習意欲がわくような工夫をしていた。	4	3	2	1
I-4	適切な要約やポイントの指摘等がなされ、説明が分かりやすかった。	4	3	2	1
I-5	配付資料等使用した教材は適切であった。	4	3	2	1
I-6	本講習の内容・方法についての（上記の1～5の視点を踏まえた）総合的な評価	4	3	2	1

Ⅱ 本講習の成果について

Ⅱ-1	教職生活を振り返るとともに、教職への意欲の再喚起、新たな気持ちでの取り組みへの契機となった。	4	3	2	1
Ⅱ-2	教育を巡る様々な状況、幅広い視野、全国的な動向等を修得することができた。	4	3	2	1
Ⅱ-3	各教育活動に係る学問分野の最新の研究動向、これまでの研修等では得られなかった理論・考え方・指導法や技術等を学ぶことができ、今後の教職生活の中での活用や自らの研修での継続した学習が見込まれる。	4	3	2	1
Ⅱ-4	受講前よりも講習内容への興味が深まり、教員としての知識技能の厚みや多様さを増す一助となった。	4	3	2	1
Ⅱ-5	本講習を受講したあなたの最新の知識・技能の習得の成果についての（上記の1～4の視点を踏まえた）総合的な評価	4	3	2	1

Ⅲ 本講習の運営面（受講者数、会場、連絡等）についての評価

Ⅲ-1	本講習の運営面（受講者数・会場・連絡等）についての評価	4	3	2	1
-----	-----------------------------	---	---	---	---

（裏面もあります）

図1 教員免許状更新講習受講者評価書

表 1 受講者全体，必修講習受講者，選択必修講習受講者および選択講習受講者の受講者評価における各評価項目の平均値，標準偏差および評価人数

		全体		必修		選択必修		選択	
		平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数
I-1	学校現場が直面する諸状況や教員の課題意識の反映	3.495 (0.631)	4,752	3.505 (0.631)	975	3.618 (0.555)	929	3.452 (0.649)	2,848
I-2	講習のねらいや到達目標の明確さとこれに即した講習内容	3.622 (0.575)	4,752	3.561 (0.630)	973	3.669 (0.529)	930	3.627 (0.568)	2,849
I-3	学習意欲がわくような工夫	3.594 (0.611)	4,751	3.538 (0.646)	975	3.656 (0.555)	928	3.593 (0.614)	2,848
I-4	適切な要約やポイントの指摘等と、説明の分かりやすさ	3.568 (0.627)	4,753	3.512 (0.673)	975	3.610 (0.583)	929	3.574 (0.624)	2,849
I-5	資料等を使用した教材の適切さ	3.602 (0.585)	4,746	3.538 (0.647)	975	3.615 (0.559)	923	3.620 (0.569)	2,848
I-6	本講習の内容・方法についての総合的な評価	3.621 (0.561)	4,636	3.569 (0.601)	951	3.674 (0.530)	909	3.621 (0.588)	2,776
II-1	教職生活の振り返りと意欲の再喚起	3.557 (0.617)	4,753	3.555 (0.617)	975	3.607 (0.578)	929	3.541 (0.628)	2,849
II-2	教育を巡る様々な状況や、幅広い視野、全国的な動向の修得	3.425 (0.661)	4,754	3.558 (0.617)	975	3.497 (0.619)	930	3.357 (0.680)	2,849
II-3	教育活動に係る最新の研究動向、理論・考え方・指導法や技術	3.533 (0.608)	4,751	3.484 (0.637)	975	3.560 (0.586)	929	3.541 (0.604)	2,847
II-4	教員としての知識技能の厚みや多様さ	3.611 (0.719)	4,751	3.553 (0.599)	975	3.623 (0.557)	929	3.627 (0.802)	2,846
II-5	最新の知識・技能の習得の成果	3.570 (0.569)	4,731	3.545 (0.586)	965	3.604 (0.536)	925	3.567 (0.573)	2,841
III-1	本講習の運営面についての評価	3.585 (0.858)	4,699	3.591 (1.523)	963	3.576 (0.604)	916	3.585 (0.578)	2,819
全項目		3.565 (0.635)		3.542 (0.701)		3.609 (0.566)		3.559 (0.623)	

次に，必修講習，選択必修講習と選択講習の受講者の評価点のつけ方を比較すると，12 評価項目すべてにおいて，1～4 点の評価をした人数の分布について講習別による差がみられた。「I-1 学校現場が直面する諸状況や教員の課題意識を反映して行われていた」においては選択必修講習受講者の評価点が有意に高い結果だった ($p<0.001$)。全体として，昨年度まで選択講習の評価の平均点が最も高かったが，今年度は選択必修講習の項目評価の平均点がもっとも高く，全 12 項目中 8 項目で平均点がもっとも高く（表 1，太字下線），受講者の満足度は高かったと思われる。

これは昨年度までと異なる傾向である。昨年度までは，専門教科ごとに細分化され，受講者の興味のある講習やニーズに合う講習が選ばれたことで選択講習の評価が高かったが，今年度は選択必修講習の評価が高くなっており，受講者の現代的な教育課題に対する教員のニーズが高く，それに応える講習が実施されたことにより，平均値が高かったと考えられる。

3-2. 受講者の勤務校別の受講者評価の平均値と点数の分布

保育所・幼稚園（898名）、小学校（1657名）、中学校（716名）、高等学校（725名）、特別支援学校（279名）およびその他（485名）を勤務校とする受講者による各評価項目と全項目の平均値と標準偏差を表2に示す。なお、表2中の橙色塗りつぶしは各設問での勤務校種の中で最も平均値が高いもの、水色塗りつぶしは各設問での勤務校種の中で最も平均値が低いものを示す。

表2に示す平均値からはその他の勤務者が比較的高い点を付けたことがわかった。昨年度は高等学校勤務者の平均点が最高となる項目もあったが、今年度は全ての項目においてその他の平均値がもっとも高かった。

設問Ⅲの本講習の運営面についての評価については勤務校により差はみられなかった。事務の仕事では勤務校により差をつけるわけではないので、当然の結果ではあるが、いずれの受講者も他の設問と比較すると、良い評価をしていた。

表2 勤務校別（保育所・幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校およびその他）の受講者評価における各評価項目の平均値および標準偏差

	保育所・幼稚園		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		その他	
	平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数
Ⅰ-1	3.501	898	3.518	1656	3.454	712	3.423	723	3.491	279	3.576	484
	0.614		0.614		0.663		0.663		0.776		0.618	
Ⅰ-2	3.600	897	3.613	1654	3.610	713	3.653	724	3.566	279	3.693	485
	0.564		0.576		0.585		0.585		0.794		0.548	
Ⅰ-3	3.546	896	3.594	1656	3.583	712	3.612	724	3.613	279	3.661	484
	0.620		0.617		0.620		0.620		0.802		0.594	
Ⅰ-4	3.513	897	3.582	1656	3.541	713	3.588	724	3.548	279	3.647	484
	0.644		0.613		0.637		0.637		0.790		0.598	
Ⅱ-1	3.575	896	3.612	1654	3.577	712	3.623	724	3.540	276	3.663	484
	0.615		0.573		0.573		0.573		0.783		0.561	
Ⅱ-2	3.592	883	3.617	1613	3.587	702	3.632	704	3.632	266	3.714	468
	0.573		0.578		0.571		0.571		0.788		0.561	
Ⅱ-3	3.562	898	3.558	1656	3.543	713	3.522	724	3.563	279	3.613	483
	0.579		0.611		0.630		0.630		0.792		0.639	
Ⅱ-4	3.474	898	3.455	1656	3.340	712	3.333	724	3.305	279	3.565	485
	0.616		0.635		0.679		0.679		0.742		0.612	
Ⅲ-1	3.521	898	3.561	1655	3.499	713	3.492	724	3.455	279	3.612	482
	0.594		0.586		0.618		0.618		0.770		0.592	
Ⅲ-2	3.580	898	3.614	1654	3.575	713	3.598	723	3.577	279	3.748	483
	0.571		0.568		0.593		0.593		0.794		1.448	
Ⅲ-3	3.548	896	3.583	1644	3.531	712	3.551	721	3.541	279	3.672	479
	0.559		0.556		0.590		0.590		0.786		0.548	
Ⅲ-4	3.554	891	3.612	1628	3.578	709	3.547	719	3.516	275	3.653	476
	0.594		1.221		0.566		0.566		0.778		0.567	
全項目	3.547		3.577		3.535		3.548		3.529		3.651	
	0.595		0.646		0.610		0.610		0.783		0.657	

3-3. 受講者評価の経年変化

平成 22～30 年度の評価についての平均点、標準偏差および評価人数を表 3 に示す。なお、昨年度より設問が大きく変更されたため、平成 22 年度から変更のない設問のみを比較対象とした。

いずれの評価項目においても平均値は年を経るごとに高くなり、平成 28 年度は低下したが、昨年度は比較した 4 項目中 3 項目で最高値となった。今年度の平均値は 4 項目中 3 項目で昨年度に次ぐ値となっており、教員免許状更新講習の講師の継続的な改善の成果であると評価できる。

表 3 平成 22 年度から平成 30 年度の受講者評価における評価問項目の平均値および標準偏差

		I -1	I -2	I -6	II -5
H22	平均値 (標準偏差)	3.394 (0.656)	3.503 (0.614)	3.444 (0.680)	3.366 (0.662)
	人数	5,744	5,745	5,762	5,762
H23	平均値 (標準偏差)	3.391 (0.674)	3.518 (0.614)	3.461 (0.676)	3.387 (0.646)
	人数	6,015	6,021	6,026	6,026
H24	平均値 (標準偏差)	3.449 (0.637)	3.543 (0.593)	3.510 (0.635)	3.441 (0.614)
	人数	5,945	5,946	5,948	5,948
H25	平均値 (標準偏差)	3.518 (0.609)	3.577 (0.595)	3.546 (0.638)	3.466 (0.617)
	人数	5,460	5,466	5,468	5,468
H26	平均値 (標準偏差)	3.520 (0.613)	3.585 (0.605)	3.570 (0.601)	3.496 (0.611)
	人数	5,482	5,486	5,461	5,484
H27	平均値 (標準偏差)	3.538 (0.602)	3.610 (0.572)	3.603 (0.566)	3.512 (0.592)
	人数	5,050	5,049	5,021	5,046
H28	平均値 (標準偏差)	3.446 (0.631)	3.572 (0.582)	3.551 (0.581)	3.483 (0.602)
	人数	3,371	3,371	3,371	3,373
H29	平均値 (標準偏差)	3.516 (0.608)	3.631 (0.543)	3.638 (0.527)	3.579 (0.551)
	人数	3,067	3,067	2,995	3,047
H30	平均値 (標準偏差)	3.495 (0.631)	3.622 (0.575)	3.621 (0.561)	3.570 (0.569)
	人数	4,752	4,752	4,636	4,731

4. まとめ

受講者評価を分析して以下のことが明らかになった。

- ① 講習内容・方法、講習で得られる成果、講習の運営に関して、全体的に受講者からよい評価が得られていることがわかった。
- ② 必修講習、選択必修講習と選択講習別の受講者評価では全 12 評価項目とも選択必修講習の評価が高かった。選択必修講習では現代的な教育課題がテーマとなっており、受講者のニーズに合う講習が選ばれている傾向があるとわかった。
- ③ 勤務校別に比較すると、その他に属する受講者の平均点が高く、これらの満足度が高かったと推測される。
- ④ 平成 30 年度の受講者評価は、前年度までと比べて講習内容、成果において比較した 4 項目中 3 項目で昨年度に次ぐ高い評価が得られており、継続的な改善の効果が表れていると考えられる。

受講評価書・自由記述

教育学部 小畑 真梨子

毎年、免許状更新講習では受講者全員に受講した講習と講習全般について、自由記述欄を含む受講評価書に記入をお願いしている。寄せられた意見・要望等は、次年度以降の講習をより充実したものにしていくなため活用させて頂いている。ここでは受講評価書の自由記述欄の記入内容をもとに平成30年度の更新講習を振り返る。講習については必修講習、選択必修講習、選択講習の3種類に分けて検討し、運営面については全体の意見をまとめたものを掲載する。なお自由記述のデータは必修講習900件以上、選択必修講習900件以上、選択講習2800件以上、に及んでいるため以下の内容はその一部である。コメント中の個人情報や、講習が特定されるようなものに関しては、一部表現を変更していることをご了承いただきたい。

I 「必修講習内容・方法」についてのコメント

- ・最新の事情がよくわかりました。
 - ・生徒とのかかわりが深められるような教材を紹介していただいた。
 - ・特に3Sカードは授業の振り返りとして、すぐに使えるので、どんどん利用していきたい。
 - ・また、子ども達にポイントをあてて話す力をつけることができるので、私のこれからのめあて（子どもたちにつけさせたいと思っていた力）にぴったりの教材だと思います。
 - ・長時間でしたが、校内研修などでは学べないようなことを教えていただけました。有意義な時間でした。
 - ・長い講習でしたが、映像や活動もまぜながら教えていただき最後まで楽しく受講できました。
 - ・教職経験も長くなり、なかなか研修を受ける機会が減ってきた中での受講だったので、外国の教育事情や3Sの指導方法など新しく取得できた。
 - ・とても受講しやすい雰囲気、最後まで興味深く印象に残る講習でした。
 - ・紀州で講習がされたこと、ありがたく思います。尾鷲市あたりでも講習がされると便利なので今後のご検討よろしくお願いします。
 - ・ICTなど不安はありましたが、その不安が少しとれました。プログラミングも少しずつ勉強していこうと思います。
 - ・丸1日勉強したのは学生の時以来でとても濃い1日でした。知らないことばかりで、もっともっと子ども達のために勉強しなくてはと、改めて実感しました。今日学んだことをさっそく来週から学校現場に生かしていきたいと思います。
 - ・わかりやすく、おもしろく工夫してくださっていたので楽しく学べました。
- 現在、特別支援教育のコーディネーターとして勤めているため、今日一日の講義は日々の学校生活に直結しており、とても勉強になり学ぶこともたくさんありました。
- ・今現在は重度の子どもは担当していないが、考えるべき事の多い内容であった。
 - ・障害に関することを分りやすく説明していただけて良かった。幼稚園と違う校種の方とグルー

プディスカッションでき、色々知ることができ良かった。

- ・ 特別支援という視点から、今までの自分は一方向のみの考え方だったのに対して他方向から考えるきっかけになった。
- ・ 就学前の教育の大切さがよくわかりました。
- ・ 幼稚園から小学校へ子どもたちの発達がどう伝わっているか、よくわかりました。明日から子どもたちの背景をよりしっかりと見ていきたいと思います。
- ・ 自分自身がもうすぐ出産する予定だった為興味のある内容で良かった。
- ・ とても分かりやすく、校種違いの内容だったので楽しく受講できた。
- ・ 小学校に入る前の子どものとく性や幼児教育について学べたので小学校の教育の参考になった。また、自分が父親としての子どもとの関わり方についても学ぶことができた。
- ・ 実際の保育に役立てる内容で良かったです。
- ・ 興味のある内容なのでききやすかったです。
- ・ 乳幼児期の子どものお話を興味を持ってきくことができました。
- ・ 保育者だったのでとても勉強になりありがたかった。ふだんは現場が主で学ぶ場も少ないので見直しながら勉強することができたのでよかった。
- ・ 我が家でもよくある事で考えさせられた。保育園に行くことによって幼児教育の現状、大変さがよくわかるようになり、職場の進路指導にも役立てています。
- ・ インクルーシブというキーワードをもとに求められる教育について理解が大変深まりました。
- ・ 教師として必要な視点であるインクルーシブ教育について貴重な話を聞いて、非常に勉強になりました。これからも今日学んだ視点を大切にしていきたいと思います。
- ・ 差別はされる側の問題ではなく、する側の問題である。またする側には自分自身も含まれているのだと促えることが必要。だとすると今回のインクルーシブ教育については県内のみならず全国どこでも共通して取り組まなければならないことである。そうでなければ差別はなくならない。今回の講習が必修の中でも最重要課題として挙げられてもよいと思った。
- ・ グループワークで自分の意見をアウトプットしたり、他の方からいろんな話を聞かせてもらったのはよかったが、課題があいまいで、話し合いの柱がわかりづらかったです。
- ・ 話し合う時間が多すぎた。・ 見せていただいた DVD やビデオはとても良かった。
- ・ インクルーシブ教育を知らなかったなので、今日学ぶことができて勉強になりました。
- ・ すごく考えさせられる内容でした。自分の考えが少し変わりました。
- ・ 講義を聞くだけでなく、話し合いの時間も多く有意義でした。
- ・ グループ討議、ビデオもあり、内容は充実していたが、先生のお話もう少し聞きたかった。
- ・ 講師の先生の話はとてもわかりやすく、知らない用語も丁寧に解説があり、勉強になりました。
- ・ 新たな考え方の存在を示していただいた事で、考える幅が広がった。
- ・ 現場では問題点も多いが、それが社会の問題点なのか個人の問題点なのかをきちんと考える目も必要だということがよくわかる内容でした。
- ・ 自分自身の保育を見つめ直す良い機会となりました。
- ・ とても現場において役立つ内容であったと思います。こういった講習が免許更新以外の機会にもあるべきであると感じました。

- ・大変分かりやすく教えて頂き、勉強になりました。今後の保育に活かしていきたいと思います。
- ・脳の機能障害について詳しく講義してくださり、多くの発見、学びがありました。今後活かしていきたいと思います。
- ・将来を見据えた上での話で保育園での保育の重要さもよくわかりました。今後に活かしていこうと思います。
- ・すごくわかりやすくていねいに話をしていただき、とてもわかりやすかった。また具体的な例も入れていただき次から実践してみようと思えた。
- ・現在関わっている子について、どんなことが苦手なのか、なぜ苦手なのか、どう工夫すればいいのか自分自身の関わりはどうかなど、様々なことを考えていきたいと感じました。
- ・脳科学という事で、難しい話かとかまえて来ましたが、分かりやすくて、とても充実した研修になりました。
- ・発達について脳の働き等学ぶことができ勉強になりました。
- ・保育士である自分には内容が少し難しく感じる部分も多かったが、新たなことを知るよい機会となった。

Ⅱ「選択必修講習内容・方法」についてのコメント

- ・様々な校種の方と自由に話合えて良かったです。特別支援教育としてはもう少し深く学びたい気もしますが、それは選択で学べるので今のままでよいと思います。
- ・今日の講習とても勉強になりました。知らなかった三重県の特別支援教育について知れて良かったです。
- ・口調がやわらかで特にシニカルでしたが受講者同志の話し合いなども交えて集中力を途切れさせず受講できました。
- ・他校種の先生や様々な立場の方と話ができるのは貴重な機会だと感じました。講習内容も実際感じている課題も多々…解決策がむずかしいと思いました。
- ・考えさせられる時間や意見交流の時間が設定されていてとてもよかった。
- ・興味深く受講でき、現状がわかりました。現場では得られない視点で勉強になりました。
- ・たくさんの人との交流が出来て良かったです。
- ・違う学校の先生方と話す機会が多く、他の学校どこでもやはり困っているのだなという話が聞けて、学年によってさまざまな問題の違いもあるということがわかってためになりました。
- ・自分の取り組みを振り返る良い機会となりました。
- ・丁寧な説明で講習の内容が頭に入ってきやすかった。
- ・無料ですぐに活用できるスクラッチの使い方を学べて良かったです。
- ・講習内容は分かりやすく楽しめたのですが、講習であつまっている内容は基礎的なため、すでに習得済みのものばかりでした。
- ・全体的に少し分りにくかった
- ・グループ討論でいろいろな人の意見や考えが聞けたのがよかった。
- ・地域と協働していくために必要なことをわかりやすく知らせてほしかったです。

- ・同じ教育現場で働く方とディスカッションし、たくさんの考えを知ることができてよかった。お世話になりました。
- ・グループワークをし、いろんな意見を聞く事が出来、大変勉強になりました。
- ・家庭の教育力の低下や、地域社会の関係性の低下が問題となっている現代では、教師はただ勉強を教えていればいいだけの存在ではなくなっている。家庭や地域の状況をしっかり把握し、まきこんでいけるようなコミュニケーション力が必要だと感じました。
- ・とても勉強になりました。少しむずかしくて、なかなか覚えられませんでした。これを機会に勉強したいと思います。
- ・専門的な知識が得られ、大変有意義であった。
- ・発達障害について医学の面からも詳しい話がきけてよかった。
- ・難しい内容のように感じましたがとても分かりやすい講義で勉強になりました。
- ・専門的な内容でとても分かりやすかったです。支援の方法は一人ひとりによってちがいますが、もう少し具体的な支援法をたくさん聞く機会があればもっとよかったなと思います。
- ・とても分かりやすく自分自身学び、専門性を身につけないといけないという意識が高まった。

Ⅲ「選択講習内容・方法」についてのコメント

- ・とても有意義でした。楽しかったです。重盛にほとんど触れず清盛と3人の息子の対比で、平家物語の全体を見通すことができたのは意外な印象でした。人物像、最期の場面というように合戦ではなく、“人”に焦点化し、対比を通じて作品を具体的に検証していくことで、作品の捉え直しができました。
- ・活動的で理論的な内容で、どうにかして子ども達にも伝えたいと思える内容でした。特に今まであまり気にしなかった数学と図形との関係について興味を引かれる内容でもあり、他の方と協力して解決を考えられる課題もあって、意義のある活動になったと感じました。
- ・大変面白い講習で楽しかったです。昨今子どもたちの理数離れがすすんでいるなか、我々教える側の工夫で、数学が楽しいものだと感じてもらえる授業にしていきたいと改めて感じました。
- ・日頃接している生徒たちが興味を持つような話が盛り込まれていて明日、学校で使えるような内容であった。予備知識があまり多くなくても数学にふれられる、その楽しさが講義の中にあり、楽しむことができました。
- ・分かりやすいトピックスから入って頂き、それがよかったと思う。また平時の授業にも取り入れることができそうな内容でもあったのでそれが良かった。大学において、やってきた、考えるということを本講義で久し振りにすることができてそれがとても大切なことであると再認識できた。
- ・得意分野を深く学習する目的であれば本日の内容はよいと思うが、不得意分野を少しでも補いたいという受講者にとってみれば「数学を教えているのだから解けるだろう」というプレッシャーを感じてしまうことがあった。
- ・肩の力を入れすぎず参加できるのはありがたい。数についての起源的な話を自分たちに考えさせながら分かりやすく教えていただき勉強になった。また、図形についての問題もとてもハー

ドルが高いものであったが解いていく楽しみがあって良かった。

- ・午前、午後ともに実技だったので楽しく受けられました。重ね刷りの難しさも感じましたが、色の組み合わせをいろいろ試したり、刷った後に新たにほったりするなど、興味を持って参加できました。
- ・実技ということで、自分が実際に体験し、楽しさや難しさを感じられたのはとてもよかった。また、グループやペア、一人で取り組むものなどいろんなバリエーションがあってよかった。ほとんどの方が言われていたが、配色がむずかしかった。配色が、むずかしく自分のものにすることができなかった。
- ・普段した事のない経験が出来て楽しかったです。先生も明るい方で話も聞きやすかったです。とても楽しく講義を受けることができた。保育の場にも活かしていきたいと思うことがたくさんあった。
- ・墨の表現や版画について題材として取り入れてみたいと思う内容でした。日本文化という観点からも意味深いと感じた。
- ・図工をやらせる意味や美術の哲学について聞きたいと感じました。
- ・午前、午後とも子どもがワクワクする製作だったと思います。ゴム版画は、木より彫りやすかったなので、実践してみたいと思いました。重ね刷りも面白く、カラーの選び方で雰囲気も変わるので、子ども達の興味もそそると思いました。今後の参考になりました。
- ・実際にしてみることで、得た感覚が新鮮であった。またそれに対してのお話をいただいたことで、一層理解が深まった。今回失敗したことで、次に向け、工夫してみたいという気持ちが高まりました。
- ・実際の体験を通じて、楽しみながら学ぶことができた。子ども同士、教師と子どもという関係でも取り組めるので、早速取り入れていきたい。
- ・予想以上に活動が多かったので、事前に知らせてもらえるとよい。
- ・体を動かすこともでき、子ども（学生）に戻った気持ちで受講できて良かったです。
- ・G ボールを使った運動でボールから落ちて何ヶ所か打撲してしまったので、マットが下にひいてあると安心してできるかなと思いました。
- ・現場で課題となっている問題を明確し、その指導を体を使ってわかりやすく講義していただき、とても学びとなりました。体力的につらかったことありますが、楽しむことができました。
- ・休み時間の取り方がありがたかったです。講義内容が日頃行っていることとぴったり合っていて、それを裏付ける理論が学べて良かったです。
- ・運動というと体育の授業のイメージが強かったですが、学びや日常生活でも相手との距離や関係性などが養われていくのだということがわかりました。
- ・体育のあり方がかかっては個人、集団の能力を高めるものであったが、今は集団の関わりを学ぶ場に変化してきているというのは驚きであった。それをふまえた本日の講座は学級経営にもつながるよい講座であった。
- ・生徒のみならず、自分自身へのストレス対処法を学ぶことができ、今後も役立ちそうだった。この講習を受けてよかった。
- ・専門的な知識で思っていたものとは違い少し残念であった。地震における災害のそなえや防衛

など身になることを知りたかった。対象が就学前の子には内容が難しかったが、ストロー工作やクロスロードは楽しめたので実践してみたい。

- ・南海トラフ地震がくると言われているので、防災にとっても興味がありました。ためになる話が聞けて良かったです。実験はグループワークも楽しくでき良かったです。
- ・今日の講義で生物に対する自分の意識が、教材の使い方でこんなにも視覚に訴えられ、とてもよく分かり、明日からの授業に活かして行けるヒントがたくさんありました。
- ・日頃、触れることのなかった捕鯨の話や調査の方法、鯨類の生態等とても詳しく紹介していただき、ありがとうございました。早速、水族館に行きたくなったこと、いつかホエールウォッチングに出かけたいと思うようになったこと、学校に戻って子どもたちに得意顔で話したいことなど、いろいろ考えました。
- ・期待していた通り、海の哺乳類について、たくさん知らなかったことを学ぶことができたし、珍しい実物も見ることができ、とても楽しく学ぶことができました。捕鯨の問題などにも関心があったので話が聞けてとてもよかったです。海洋生物についての興味がわきました。
- ・イルカはクジラと同じ仲間であることなど、日常の中で知られていない、けれど生徒が聞いたら興味がわくようなことを教えていただき満足でした。授業にいかしていけたらと思います。
- ・こんなにも海の生物について考える機会はなく、とても新鮮でした。今の講義を聞いて水族館に行きたくなったように、子どもたちが授業から自分の生活につなげられるような時間を作っていきたいと思いました。

Ⅲ「運営面」についてのコメント

- ・仕事の合間(休日)での参加となるので負担になりすぎずリフレッシュ感覚になるものがよい。
- ・適宜休憩を入れていただいて助かった。
- ・とても楽しい講義だったのですが、教室がせまくとても息苦しく感じました。
- ・駐車場を開放してほしいです。
- ・受講番号でのクラス分けではなく、校種や学年でのクラス分けをしても良いのではないかと感じました。
- ・学舎前に案内の方がいらっしゃるので、安心であった。
- ・座席がみっちりだったので、もう少し席に余裕のある部屋がよかったような気がします。
- ・校内が広すぎて戸惑った。
- ・3人がけの長机が狭かったです。
- ・受講人数が少なく、講師の方にきめ細く指導、対応していただき、大変ありがたかった。
- ・思いのほか教室が暑かったです。
- ・イスが固かった。
- ・メールでの連絡も丁寧にして頂き、訂正の所も電話連絡して頂き助かりました。
- ・人数もちょうどよく、会場への案内も親切だった。

5 2014 年度から 2018 年度における受講者の詳細

教育学部 和田 崇

(1) のべ受講者について

本項では、2014 年度から 2018 年度におけるのべ受講者について概観する。

過去 5 年間ににおける受講年度ごとの必修講習、選択必修講習（2016 年度より実施）および選択講習におけるのべ受講者数の推移を示した〔表 1〕において、今年度は、他のグループよりも対象となる生年月日の範囲が広い第 10 グループの旧免許状所持者が受講したため、昨年度に比べてのべ受講者数が約 1,700 名増加した。講習別に見ても、必修・選択必修・選択の全てにおいてまんべんなく増加している。

受講年度ごとの各受講対象区分におけるのべ受講者数を示した〔表 2〕では、今年度、幼稚園に勤務している者や特別支援学校に勤務している者、中等教育学校に勤務している者や保育士の比率が微増したことにもなっており、小・中・高等学校に勤務している者の比率がやや低下している。しかし、前述のとおり、のべ受講者数は全体的に増加しており、比率の変化もそれほど大きくはない。

年齢別ののべ受講者数を示した〔表 3〕では、今年度は 30 代の比率が 19%も増加し、それにもなっており 40 代と 50 代の比率が低下している。これは、第 10 グループの対象となる生年月日の最若年層が、第 9 グループまでの「昭和 58 年 4 月 2 日から昭和 59 年 4 月 1 日まで」といった 1 年区切りではなく、「昭和 59 年 4 月 2 日から」と広がったことによるものであり、今年度に限った現象であると考えられる。

連絡先都道府県別ののべ受講者数を示した〔表 4〕では、今年度は総数の増加にもなっており三重県の受講者が約 1,500 名増加し、増加数のおよそ 90%を占めている。しかし、県外の受講者に目を向けても、京都府や大阪府、兵庫県など関西圏の受講者数こそ減ったものの、愛知・奈良・滋賀・岐阜・若山の近隣 5 県の受講者は、総数に比例するかたちで増加した。

(2) 実受講者について

次に、2014 年度から 2018 年度における実受講者について概観する。

2014 年度から 2018 年度までの受講年度ごとの実受講者数を示した〔表 5〕において、今年度は、のべ受講者数と同じく第 10 グループを起因として 416 名と大幅に受講者が増え、昨年度の 1.5 倍超となった。これは、過去 5 年間ににおいて最多の受講者数である。

受講年度ごとの各受講対象区分における実受講者数を示した〔表 6〕では、今年度は昨年度に比べて保育士の受講者が大幅に減少していることがわかる。それ以外の区分では、全体数に比例してそれぞれ増加しており、特に教員勤務経験者、教員として任命又は雇用される者や教員採用内定者が昨年度に比べて約 3 倍の増加となった。

年齢別の実受講者数を示した〔表 7〕では、やはり今年度はのべ受講者数と同じく 30 代

が実数・割合ともに大幅に増加している。40代と50代の実数の増加が微増なのに対して、30代の増加幅はおよそ2.5倍である。

連絡先都道府県別の実受講者数を示した〔表8〕では、今年度は総数の増加にともなって三重県の受講者数が過去5年で最多となっている。それ以外の都道府県では、奈良県（おそらく昨年度までは「その他」としてカウントしていたと思われる）と滋賀県の増加が目される。同じ近隣府県でも京都や岐阜が昨年度比で減少や横ばいであることを踏まえると、拠点となる大学の少ない奈良や滋賀から受講者が三重に流れてきた可能性が考えられる。

最後に、〔表9〕では、必修講習と選択講習をどのような組み合わせで受講したかという「受講スタイル」の変化を年度ごとにまとめている。2014年度と2015年度では「必修＋選択×3」が最も多く、選択必修が加わった2016年度以降も「必修＋選択必修＋選択×3」の割合が他を圧倒している。このことから、受講者は年度内に三重大学ですべての単位を取り切れるように受講登録する傾向が強いことがわかる。そうした動向を受け、今後、夏休みに5日連続の合宿パックのような日程を組むなど、多忙な教育現場のニーズに合わせた開講方法を考えてみてもよいかもしれない。

表1 受講年度ごとの受講のべ数

受講年度	必修	選択必修	選択	合計
2014年度	802	—	2,257	3,059
2015年度	734	—	2,122	2,856
2016年度	701	664	1,982	3,347
2017年度	624	628	1,850	3,102
2018年度	998	935	2,900	4,833

註：連絡協議会主催で開催した講習は、2015年度までは必修講習にを含んでおり、2016年度からは選択必修講習に含んでいる。

表2 受講年度ごとの各受講対象者区分における受講のべ数

受講年度		幼稚園に勤務している者	小学校に勤務している者	中学校に勤務している者	高等学校に勤務している者	特別支援学校に勤務している者	中等教育学校に勤務している者	教員勤務経験者	教員として任命又は雇用される（見込みのある）者	教員採用内定者	保育士（認定こども園及び認可保育所等に勤務している者）	その他
2014年度	必修	41	285	141	147	45	1	16	29	79		18
	選択	96	863	467	403	142	5	34	63	134		50
	計	137	1148	608	550	187	6	50	92	213		68
	割合	4%	38%	20%	18%	6%	0%	2%	3%	7%		2%
2015年度	必修	41	243	122	138	41	4	26	20	56		43
	選択	122	722	371	433	133	10	57	50	154		70
	計	163	965	493	571	174	14	83	70	210		113
	割合	6%	34%	17%	20%	6%	0%	3%	2%	7%		4%
2016年度	必修	29	237	123	146	27	0	12	45		69	13
	選択必修	25	226	118	137	28	0	12	38		68	12
	選択	72	676	359	407	85	0	30	120		185	48
	計	126	1139	600	690	140	0	54	203		322	73
	割合	4%	34%	18%	21%	4%	0%	2%	6%		10%	2%
2017年度	必修	29	237	123	146	27	0	12	45		69	13
	選択必修	25	226	118	137	28	0	12	38		68	12
	選択	72	676	359	407	85	0	30	120		185	48
	計	126	1139	600	690	140	0	54	203		322	73
	割合	4%	37%	19%	22%	5%	0%	2%	7%		10%	2%
2018年度	必修	66	328	143	133	67	15	19	56		147	12
	選択必修	62	321	136	125	57	14	19	48		131	12
	選択	186	952	404	444	175	35	64	164		401	35
	計	314	1601	683	702	299	64	102	268		679	59
	割合	6%	33%	14%	15%	6%	1%	2%	6%		14%	1%

註：システム改修に伴い2016年度より集計の区分を一部変更。

①「教員として任命又は雇用される（見込みのある）者」と「教員採用内定者」を合わせた区分に変更。②保育士の区分を追加。（それより以前はそれぞれ該当する区分に含む。）

表3 各受講年度ごとにおける受講年齢別受講のべ数								
			30代		40代		50代	その他
2014年度	必修		249		278		275	0
	選択		659		790		808	0
	計		908		1068		1083	0
	割合		30%		35%		35%	0%
2015年度	必修		241		245		248	0
	選択		654		719		749	0
	計		895		964		997	0
	割合		31%		34%		35%	0%
2016年度	必修		212		233		255	1
	選択必修		204		219		240	1
	選択		608		619		755	0
	計		1024		1071		1250	2
	割合		31%		32%		37%	0%
2017年度	必修		220		197		205	2
	選択必修		214		194		218	2
	選択		657		550		635	8
	計		1091		941		1058	12
	割合		35%		30%		34%	0%
2018年度	必修		546		202		226	11
	選択必修		520		187		211	7
	選択		1545		616		668	30
	計		2611		1005		1105	48
	割合		54%		21%		23%	1%

表4 連絡先都道府県別の受講者のべ数

[illegible]

表5 受講年度ごとの実受講者数													
年度	2014年度			2015年度			2016年度			2017年度			2018年度
実受講者数	1,008			920			890			789			1,205

註：2年度、3年度にわたって受講している受講者についてもそれぞれの年度でカウントされている。

表6 受講年度ごとの各受講対象者区分における実受講者数													
受講年度	幼稚園に勤務している者 (保育教諭含む)	小学校に勤務している者	中学校に勤務している者	高等学校に勤務している者	特別支援学校に勤務している者	中等教育学校に勤務している者	教員勤務経験者	教員として任命又は雇用される (見込みのある)者	教員採用内定者	保育士 (認定こども園及び認可保育所等に勤務している者)	その他		
2014年度	45	328	206	206	60	2	17	35	90				19
	割合	4%	33%	20%	20%	6%	0%	2%	3%	9%			2%
2015年度	48	280	167	191	57	5	31	24	71				46
	割合	5%	30%	18%	21%	6%	1%	3%	3%	8%			5%
2016年度	33	276	164	201	42	0	15		56		81		22
	割合	4%	31%	18%	23%	5%	0%	2%	6%		9%		2%
2017年度	38	233	151	160	35	0	22		62		90		20
	割合	4%	26%	17%	18%	4%	0%	2%	7%		10%		2%
2018年度	78	375	179	198	74	19	70		166		16		30
	割合	6%	31%	15%	16%	6%	2%	6%	14%		1%		2%

註：システム改修に伴い2016年度より集計の区分を一部変更。

①「教員として任命又は雇用される（見込みのある）者」と「教員採用内定者」を合わせた区分に変更。②保育士の区分を追加。（それより以前はそれぞれ該当する区分に含む。）

表7 各受講年度における受講年齢別実受講者数													
				30代		40代		50代		その他			
2014年度				312		361		335		0			
	割合			31%		36%		33%		0%			
2015年度				302		308		310		0			
	割合			33%		33%		34%		0%			
2016年度				275		292		322		1			
	割合			31%		33%		36%		0%			
2017年度				275		247		263		4			
	割合			35%		31%		33%		1%			
2818年度				658		255		278		14			
	割合			55%		21%		23%		1%			

表8 道統先都道府県別の実受講者数													
	三重県	愛知県	奈良県	京都府	大阪府	滋賀県	兵庫県	岐阜県	福井県	静岡県	神奈川県	その他	
2014年度	928	28		4	13	11	6	2	2	1	1		4
2015年度	852	24		5	8	9	8	1	0	0	1		4
2016年度	793	29		10	17	8	13	1	0	3	2		5
2017年度	726	13		15	14	4	9	2	0	0	0		6
2018年度	1089	30	13	7	18	15	9	3	0	1	2		18

註：各年度実受講者1名しかいなかった都道府県は「その他」にまとめた。なお、該当する都道府県は2013年度は愛媛県、山口県、石川県、福島県。2014年度は沖縄県、広島県、山口県、千葉県。2015年度は宮城県、長野県、和歌山県、岡山県。2016年度は長崎県、千葉県、石川県、富山県、和歌山県。2017年度は奈良県、埼玉県、東京都、広島県、千葉県、和歌山県である。

表9 各年度における受講スタイルごとの実受講者数（下段は各年度の受講者数を100%とした際の割合）										
		必修のみ	必修・選択×1	必修・選択×2	必修・選択×3	選択×1	選択×2	選択×3		
2014年度		141	43	37	584	88	46	69		
		13.99%	4.27%	3.67%	57.94%	8.73%	4.56%	6.85%		
2015年度		115	29	39	551	75	47	64		
		12.50%	3.15%	4.24%	59.89%	8.15%	5.11%	6.96%		
註：選択講習を3講習以上受講していたものも、「選択×3」とした。また、必修講習を2講習以上受講していたものは、選択講習受講数にあわせて集計した。										
		必修のみ	選択必修のみ	必修・選択必修	必修・選択必修・ 選択×3	選択×1	選択×2	選択×3	その他 (左記以外の組合せ)	
2016年度		41	13	61	504	81	36	45	109	
		5.20%	1.65%	7.73%	63.88%	10.27%	4.56%	5.70%	13.81%	
2017年度		21	14	43	483	49	39	25	115	
		2.66%	1.77%	5.45%	61.22%	6.21%	4.94%	3.17%	14.58%	
2018年度		29	13	54	718	85	41	42	223	
		2.41%	1.08%	4.48%	59.59%	7.05%	3.40%	3.49%	18.51%	

東紀州地域で教員免許状免許更新講習

須曾野 仁志

本年度、三重県東紀州地域（熊野市、尾鷲市、紀北町、御浜町、紀宝町）での教員免許状更新講習を開講しました。更新講習が初めて開かれた2010年に、本学では、津市の三重大学会場以外に、北勢、伊賀、尾鷲等での会場で実施しましたので、津市栗真町屋町のキャンパス以外で開講するのは、9年ぶりのことでした。

三重県南部にある東紀州で更新講習を開くきっかけは、三重県立木本高等学校敷地内に三重大学東紀州サテライト東紀州教育学舎が2017年に開設されたことです。この年に、専任教員1名、特任教員2名が着任し、教育学部の兼務教員3名とともに、英語やプログラミング学習等の出前授業、小中学生のための教材開発を進めてきました。また、教職大学院の院生や学部生が東紀州地域での教育実習を実施したり、本地域での少人数や複式学級での特色ある教育実践から多くのことを学ばせていただけてきました。

私（須曾野）は兼務教員の一人ですが、「三重大学のサテライトができたなら、ぜひ、東紀州での免許更新講習を開いてほしい」という声を、東紀州地域でお勤めの先生方から数多く聞きました。その要望を実現するため、2018年度には、必修2、選択必修2、選択8の講習の開講を考えました。必修講習は、三重県立紀南高等学校（御浜町）、県立特別支援学校東紀州くろしお学園おわせ分校（尾鷲市）で、それ以外は、東紀州サテライト学舎内のミーティングルーム内で開講しました。

各講習の募集人数は、教室の広さや東紀州地域での講習該当者の数から20～30人（講習によって異なる）と決めましたが、実際に受講していただいた数は、必修と選択必修講習は定員充足率100%で、選択講習も合わせた全体の充足率が92.4%で、三重大学全体の充足率82.3%と比べ、非常に高いものでした。また、受講者の方々に評価していただく評価結果も、「4.よい」と答えていただいた結果は、必修72.2%、選択必修87.3%、選択62.3%であり、三重大学全体の評価より、必修と選択必修は特に高い結果となりました。

参加いただいた方々は、東紀州地域5市町の方がほとんどでしたが、和歌山県新宮市から参加いただいた方、津市や四日市等からの方、びっくりしたことに、大阪府や兵庫県からの方もいらっしゃいました。関西地域からの参加者は「地元（故郷）がこちらだから」「三重大学の卒業生だから久しぶり三重県を旅したくなって」ということで、熊野や尾鷲まで来ていただきました。また、東紀州地域以外での三重県市町からの参加者は「実家がこちらで、小さな子どもがいて、子どもをあずけて講習受けられるので」という方も数人おられました。

東紀州での最後の講習は、サテライト専任教員の犬野と私（須曾野）が担当するフォトムービーを制作する選択講習（8月22日）でした。あいにく、台風接近で、午前10時半頃、本地域に暴風警報が発令されたため、半日で講習を切り上げなければならないことが起こりました。幸い、担当講師の予定が翌日空いており、翌日午前中に講習を続けることができましたので、6時間の講習認定ができました。参加者にとっても担当講師にとっても、忘れられない講習になったのでは、と考えます。

次年度2019年にも同様な規模で東紀州地域での更新講習を計画しています。今年度と同様に多くの方々にご参加いただきたいと思います。

Ⅲ 成果と課題

1 企画部会委員の立場から

本年度の「必修」講習の反省 企画部会委員の立場から

須曾野 仁志

本年度は教員免許状更新講習 10 年目で、第 10 グループの方々の参加が多くなりますので、昨年度の講習数より 1.4 倍ほどの必修講習を開設しました。全体の講習定員は 1105 人でしたが、全必修講習者は 998 人で充足率が 90.3%で、選択必修講習 80.8%、選択講習 80.4%と比べ、かなり高い数値となりました。4 月の講習募集時には、講習前半（6 月頃）申込者数はそれほど多くありませんでしたが、再募集期間には、7 月 8 月の講習は充足率 100%の講習が増え、9 月以降の本申込でも同様な申込状況でした。

昨年度までは、本学の必修講習は、1 人の講師が 1 日の講習を務める講習（講師 1 人体制）と、3 人の講師が分担し約 2 時間ずつ講習するものがありましたが、今年度から 1 人体制はそのまま、分担する講習を講師 2 人に変更しました。午前午後に 3 時間ずつの講習となりましたが、受講者からの感想を読むと、そちらの方がゆったりと話が聞け、好意的なものが多かったようです。

必修講習は、選択必修や選択講習とは異なり、講習対象者が職種・校種・教職経験・担当教科に関わらず、必ず受講しないといけない講習で、受講者の満足度は他の講習と比べ、やや低いものがあると考えられますが、平成 28 年から「よい」と評価する受講者が徐々に増え、本年は 60.2%で過去 10 年間では最高の結果となりました。参加者の皆様から好意的に高い評価を得たことに講習企画委員の一人として大変喜んでいきます。

東紀州地域での講習が本年度より始まりましたが、この講習は筆者が担当しました。6 月 2 日に三重県立紀南高等学校で、7 月 21 日に三重県立特別支援学校東紀州くろしお学園おわせ分校で開講しましたが、2 つとも定員一杯で、30 人の参加者が熱心に受講して下さいました。会場を提供してくださりました紀南高等学校とくろしお学園の先生方には大変お世話になり、感謝申し上げます。次年度にも少し定員増で同様に開講できるようになったことも嬉しく思っています。

これまでの本学必修講習は、講習に番号が付けられたものだけで、「内容がどのようなものかわかりにくい」というお声をいただいていたのですが、次年度から講師によって重点を置いた内容が分かるように「教員として学び続けと指導改善」「世界の教育事情から学ぶ」などとサブタイトルを付けることになり、講師やサブタイトルから講習を選んでいただけるようになりました。

「更新講習は、放送やネットで視聴するより、やはり対面式がよい。」「講習は教育学部の専門の立場の先生から話が聴きたい。」という感想や評価を数多くいただけるよう、企画委員や講師が今後も努力を続けていきたいと考えています。

更新講習企画部会の立場から

三重大大学教育学部 佐藤 年明

2017 年度・2018 年度の 2 年間、企画部会委員を担当しました。2 年目は教育学部免許状更新講習実施委員会委員長も担当し、教授会で更新講習及び委員会活動の経過報告と教授会構成員への依頼事項報告を行ないました。

2 年の任期を終える時期も近づいているのに恥ずかしい話ですが、正直言って更新講習実施委員会内の運営部会と企画部会の役割分担がまだよくわからないでいます。人的に前者は他部局の委員も参加され、後者は教育学部委員で構成されることはわかっているのですが。

そういう意味で「企画部会委員としての反省・総括」の範囲を超えたことを書くかもしれません。

今年度前半期の更新講習実施期には、自身担当の選択必修講習 1 講習と選択講習 3 講習を開講しながら、講習スタッフとして 3 回出勤しました。ほとんどが休日出勤であり、正直体には堪えませんでした。振替休の取得可能期間も限られており、開講期間中はウィークデイはほとんど授業があるため、簡単には休みが取れません。組合でも要求している事項ですが、業務が少なくなる年度末などに振替休を取れるように改善してほしいです。

スタッフ業務ですが、朝の開講前の道案内は、1 時間半にわたるのでこれも体に堪えますが、卒業生と会うことができるという楽しみもあります。ただ、その後夕方の講習終了時までには仕事がありません。解放してもらうのは嬉しいし、研究室でたまった仕事をすることもできます。また不測の事態への対応のために講習終了まで待機すべきことはわかるのですが、今の業務実態ならば、朝の立ち番をする人と夕方の答案集計をする人を分けてそれぞれ数時間で済むようにすることも可能ではないかと思います。

後半期は、選択必修についての開講調査・開講依頼を担当しました。難しい仕事でした。私は今年度末で退職であり、来年度他の先生方と共に講習を担当するわけではないこともあって、正直やりにくかったです。私の退職とは関係ないですが、依頼の仕方についてクレームも受けました。

アンケート段階では、今年度が従来を超える規模での開講が必要な年度であったこともあってか、幅広く開講可能領域をあげて下さった方もおられました。しかしそれらを全部担当するという意味ではなかろうとも思われました。せっかくあげていただいたものを絞り込んでいく作業には気を使いました。来年度はアンケート段階で必修・選必・選択それぞれ何講習、合計何講習まで開講していただけるかということも書いていただくと調整しやすいかと思います。

開始当初は数年で幕引きかという憶測もあった更新講習ですが、10 年を越えました。自分自身も含めてそれなりの手応えや達成感を感じる一方、疲労感もあるのが事実です。私たちは数合わせのような作業をしましたが、それに加えて担当講師の皆さんのお気持ちを丁寧に把握することも大切だと思いました。

Ⅲ 成果と課題 1 「企画部会委員の立場から」～選択講習に関して～

三重大学教育学部 氏名 田中 伸明

平成 30 年度、私は、「三重大学教員免許更新講習委員会」の「企画部会」の委員を務めさせて頂いた。企画部会委員の立場から選択講習の成果と課題について述べてみたい。

2018 年度、本学による教員免許講習は、全 185 講座（定員 5,870 名）が企画された。このうち、選択講習は 136 講座（定員 3,605 名）であった。この数値を見ると、選択講習は、講習数で全講習の 73.5%、定員数では全講習の 61.4%の規模となっている。その百分率に 12 ポイントの差があるが、これは、選択講習では必修・選択必修講習に比べ、少人数での講習が準備出来たことを示している。三重大学の選択講習は対面講習の利点を活かし、講師と受講者のマンツツーマン度が高い講習が企画出来たと言ってよい。

年度当初の段階では、過年度比で 1.7 倍～2 倍の受講者増が予想されたため、必修・選択必修講習だけでなく選択講習もこれに対応し、前年度 105 講習（2,464 名）に比べ 136 講座（定員 3,605 名）を開設した。講座数では 1.3 倍、定員数では、1.5 倍程度の規模の選択講習を準備したことになる。その結果、選択講習の充足率（受講者数/定員）は、前年度は 75.1%（1,850 名/2,464 名）であったが、本年度は 80.4%（2,900 名/3,605 名）と 5 ポイントの伸びが見られた。充足率を向上させることは、更新講習開設当初からの課題であった。可能な限りの講座・定員増を行ったのであったが、蓋を開けてみると、講座数、定員数共に不足という事態を招くこともなく、結果的に長年の懸案であった充足率の向上を果たせたことは、成果として特筆出来る。

本年度は、東紀州地区での更新講習を新たにスタートさせた。東紀州では、全 12 講座（定員 290 名）を開設したが、そのうち選択講習は 8 講座（定員 180 名）である。東紀州での選択講習の充足率（受講者数/定員）は、87.8%（158 名/180 名）と、上浜地区に比べ充足率が高い。東紀州地区は、本学から遠距離である。交通・日程等の事情で受講に支障がある教員のニーズに応えることが出来たと考えられる。

来年度の受講者予定数は、例年の規模に戻ることが予想されている。2017 年度程度の開設規模に戻すことになるが、上浜地区、東紀州地区とも充足率を維持しながら、受講者のニーズにあった講習の質と量を確保することが、次年度以降の課題である。

企画部会委員としては、年間を通して会議に出席、更新講習の企画・運営を司る業務を行った。講習の当日は、会場案内と試験答案・受講評価票の受領の業務に就いた。会場案内については、当日行われる講習について、事前に会場・講師・プログラムを把握し適切に行なった。会場が分からず迷う受講者も見受けられ、今後も継続して会場案内の係を配置する必要があると感じた。

最後に、本委員会の企画・運営に関わる業務にご尽力された他の委員の皆様、複雑な業務を実質的に支えて下さった事務スタッフの方々に感謝申し上げ、私からの企画部会委員の総括とさせて頂きたい。

5 講習補助員の立場から

教員免許状更新講習補助員の立場から

教育学研究科教職実践力高度化先行教育実践力開発コース 山中 眞帆

<運営上の感想と反省>

私は、昨年度に引き続き、教員免許更新講習補助員を務めさせていただきました。

運営に関して良かったと思うことの一つは、補助員教育がとても充実していることです。毎年事前の説明会があり、業務の流れを把握した状態で安心して当日を迎えられました。また、マニュアルが自宅用と当日本部から渡されるもの合わせて2部あったため、分からないことや忘れたことがあっても大体マニュアルに戻って対応することができました。さらに、当日いつでも本部と連絡がとれる環境だったので、とても心強かったです。

私個人としては、特に何事もなく補助員業務を終えられたと思います。受付、受講票・写真票等書類の受け渡し、講義資料の配布、試験監督等一つ一つの業務について手順を確認しながら丁寧にこなせたと思います。必修講習は参加者が多い分取り扱う書類の量も多いので、紛失しないよう細心の注意を払いました。受講者の方とのコミュニケーションの取り方まではマニュアル化されていませんが、幸い接客業務の経験があったので、言葉かけで困ることはありませんでした。

反対に、難しかったことは受講者の方への道案内です。写真票や受験票を忘れてしまった方には本部の場所を案内する必要があります。教室や棟を間違えてしまった方には正しい場所を伝える必要があります。しかし、私は生活拠点である教職支援センター以外の場所のことをよく知らず、おまけに方向音痴なため、片言の案内しかできず申し訳ない気持ちでいっぱいでした。手元に地図を置いておけば良かったと思います。

<補助員を担当して免許更新講習に対して気づいたこと>

受講者側も教授側も、多忙な中で免許更新講習に携わっていることがわかりました。私たちは受付に備えて朝の8時過ぎには本部に集合しましたが、それと同じくらいの時間に会場に到着される受講者の方もいます。また、受講者の皆さんにとっては十年に一度の講習ですが、運営側にとっては十年に一度ではなく毎年講習です。お互いに少ない休みを講習に使っていて、正直大変だと思いました。

このような状況の中で驚くべきことは、私が補助させていただいた講師は皆、6時間の長い講習を受講者にとって実りあるものにするために創意工夫を凝らしていたことです。参加型の授業アクティビティ紹介や受講者間交流、受講者によるプレゼンテーション、映像資料の提示などがあり、あっという間に6時間が経過しているような印象を受けました。私も将来教師を目指す身として、参加者の目線から授業を計画する姿勢を全力で見習いたいです。

免許状更新講習補助員の立場から

大学院教育学研究科 1年

長谷川 雄也

◎運営上の感想と反省

受付や受講表の確認、感想文の回収、室内温度の管理、担当の先生の補助などが主な業務でした。今回、初めて補助員を経験しましたが、何一つ問題なくとてもスムーズに講習を終えることができました。そのため、特に反省すべきことはありませんでした。これは教員免許状更新講習補助員のための説明会を事前に受けており、講習の際に行う主な活動内容や役割を把握していたこと、当日の丁寧な説明があったからだと思います。業務の他に、普段関わることのない現場の先生方と意見交換や学校の子どもの話についてもすることができたのでまたの機会があれば、免許状更新講習の補助員に参加したいと思います。

◎補助員を担当して免許状更新講習に対して気付いたこと

学生の中に免許状更新講習でどのようなことが行われているか、知る事ができてよかったと思います。受講者の立場ではなく、運営する側に立つことで運営する大変さ、業務の多さを知る事が出来たからです。私が教員になり、免許状更新講習を受ける際には準備していただいたスタッフや講義を担当する教授に感謝し、受講したいと思います。

しかし、ただでさえ教員は休みが少なく疲弊しているにもかかわらず、土曜日・日曜日という休日に大学に赴き、朝から夕方まで講義を受けることは負担が大きいように感じられました。また受講者と同じく、講義を担当している教授にも大きな負担が掛かっているように感じられました。どちらにも負担が掛からない、講習の在り方について見直していかなければいけないと補助員の立場から感じました。

◎受講者の反応を見て感じたこと

英会話をする際に受講者は発音の大切さを実感したり、全身を使った英語表現を楽しんで行っていたりしたことがとても印象的でした。また、多くの人が教授の話している内容をノートに記入していたり、積極的に手を挙げて質問をしていたりする様子から学ぼうという強い意志や子ども達のためによりよい授業をしたいという想いが感じられました。また、講習を受けている人が異なる年齢、校種であるためグループワークをする際にお互い学び合い、対話を深め、学びを広げていたように感じられました。現場は忙しいため、中々学び直すことは難しいと思いますが、このような学び直す機会を設けることで子ども達のための教育が充実するならば、とてもいい仕組みだと感じました。

教員免許状更新講習補助員の立場から

教育学部 国語教育コース 3 年

眞砂 実加

1. 運営上の感想と反省

私は、今回初めて、教員免許状更新講習の補助員を担当しました。事前に補助員に対する説明会があり、また当日の流れが詳しく書かれている資料が配布されていたので、特に不安を感じることもなく当日を迎えることができました。しかし、実際に受付の対応をするイメージをしていなかったため、1 人目の受講者の方の受付をするときに焦ってしまい、こちら側で回収しなければならない写真票を配布資料と一緒に渡してしまう、という失敗をしてしまいました。その受講者の方が気づいて、教えて頂いたので後から問題になることはありませんでしたが、もっとよく資料を読んで、受付でしなければならないことを把握しておくべきだったと反省しています。補助員を担当したことのあつた人に、事前に様子を聞いておくことも大切だと思います。更新講習を受けたことのあつた受講者の方は慣れている様子でしたが、講習の場所やどのように講習を受けるのか分からずに戸惑っている方も多くみえたので、大学の校舎内に場所の案内があつた方が良かったのでは、と感じました。また、運営側のスタッフが質問に対応できるようしっかり準備しておく必要があると思いました。

2. 受講者の反応を見て感じたこと

講習は、グループになって意見を出し合う活動が多くありました。活動の中で、受講者の方一人一人が自分の考えを積極的に伝え、周りの方も「なるほど」と頷いたり質問をしたりして聴いている姿が印象的でした。教師になると、生徒指導や学級運営、学校運営などの様々な業務で忙しく、教材研究をする時間がとれない、という話をよく聞きます。「教材についてこんなに考える時間がない」と話している受講者の方もありました。その中で、この講習が教材と改めて向き合う良い機会になっていると思いました。受講者の方からも、講習の中の課題に対して考え込んでいたり、交流した意見を熱心にノートに書き込んでいたり、これからの授業につなげていこう、という意欲を感じました。また、実際に自分がした授業での子どもたちの反応などを話し合っている場面もあり、この講習が、校種や年齢が違ふ先生たちが普段の授業について交流できる貴重な機会となっていると思いました。現職の先生方の授業に対する姿勢や学校の様子を聞くことができ、私にとつても、刺激を受ける良い機会になったと感じています。

講習補助員の立場から―「選択：実技」講習について―

教育学部 理科教育コース 4年

加藤 明音

教員免許状更新講習において、受講者が任意に選択して受講する実技の講習での補助員をさせていただきました。講習では午前中に天文分野の授業で活用できるデジタルコンテンツについての講義や実践、午後から地質分野についての分かりやすく扱いやすい実験方法や教材についての紹介が行われました。

1. 受講者の反応を見て感じたこと

昨年度補助員をさせていただいたときと同様に、どの受講者の方も積極的に質問などを行っている様子が見られ意欲的に講習に参加しているように感じました。普段教える側として授業を行う受講者の方にとって、今回のように講義の受け手となる更新講習は貴重な機会なのではないかと思います。加えて、教育現場で主体的な学習が重視されてきている今、子どもたちの主体的な学びを引き出すには、まず教師自身が主体的に学ぶ意識を持つことが求められていると思います。現場で働く受講者の方の授業に対する姿勢を見て、私も学ぶ機会を大切にしていきたいと感じました。

また、講習の中では地学分野を苦手とする教員を対象とした内容であったということもあり、受講者のみなさんから実際に現場で教えるときにも地学分野に対して難しさを感じることもあるという声がありました。小学校教諭ということで様々な分野を教えなければいけないという大変な面はあると思いますが、この講習を通して現場で使える実験や観察方法を学ぶことで苦手な分野でも授業力をより高められるのではないかと思います。

2. 補助員を担当して学んだこと

講義や休み時間などに先輩でもある受講者の方と接することで様々な分野について学び続ける姿勢が大切なのだと学びました。誰にでもあまり得意でない分野というものがあるとは思いますが、小学校の教員は得意な分野だけでなくすべての教科を子どもたちに教えられなければいけません。そして、ただ教えるだけでなく、授業を通して様々なものについてのおもしろさや楽しさを伝えられることが求められていると思います。そのため、今回の講習を受講されていた方々のように苦手な分野についても学ぶ機会を大切にしていき、教材研究などを行っていく必要があると思いました。私も小学校の教員として現場に出てからもいろいろな分野に興味を持ち、常に学び続けるという姿勢を大切にしながら働いていきたいと思います。また、残り少ない大学生活において少しでも多くの知識を身に付けられるよう努めていきたいと改めて思いました。

2 運営部会委員の立場から

学部担当の教員免許状更新講習事業を振り返って

三重大学人文学部 名島利喜

2018 年度人文学部担当の教員免許状講習は、森俊一氏（名誉教授）による「財政の役割と課税」、荒井茂夫氏（名誉教授）による「中国語会話入門」、藤本久司氏（元人文学部准教授）による「異文化間のコミュニケーション」、服部範子（人文学部教授）による「音声の『見える化』を取り入れた英語学習」であった。

各講習の「教員免許状更新講習受講者評価書」によると、「Ⅰ 本講習の内容・方法について」の項目、「Ⅱ 本講習の成果について」の項目、そして「Ⅲ 本講習の運営面（受講者数、会場、連絡等）についての評価」において、4つの講習のほとんどすべての受講生が「よい（十分満足した・十分成果を得られた）」または「だいたいよい（満足した・成果を得られた）」と評価している。このアンケート結果から、概ね好評であったことが明らかである。以下では、各講習の自由記述欄に基づいて、各講習を簡単に振り返ることにしたい。

森俊一氏「財政の役割と課税」における自由記述欄への回答の傾向は、次のとおりである。財政学における考え方や理論をたくさん教えてもらった、自身の知識不足を痛感させられた、といった感想が寄せられている。受講生は、いかにも大学の講義らしい専門性の高い講義を聞くことができたようである。

荒井茂夫氏「中国語会話入門」における自由記述欄への回答の傾向は、次のとおりである。解説が非常にわかりやすかった、発音を教えてもらってよかった、中国語だけでなく中国の歴史や文化に触れることができ興味深かった、という回答が多く見られた。また、中国語をはじめて習って難しかったという感想も若干見られたが、今後も勉強を続けていきたいという回答も複数あった。受講生に中国語を学ぶインセンティブを与えている。

藤本久司氏による「異文化間のコミュニケーション」における自由記述欄への回答の傾向は、次のとおりである。今まで知らなかった文化の違いについて具体的な事例をもとに学ぶことができ勉強になった、多国籍の子どもが増えているのでコミュニケーションの取り方が分からないことが多々あるが講習で学んだことを生かしていきたい、といった感想が複数寄せられている。講習の内容は、教育現場で役立つ実践的なものであるという評価を得ている。

服部範子氏による「音声の『見える化』を取り入れた英語学習」における自由記述欄への回答の傾向は、次のとおりである。英語の音声を「見える化」という英語教育へのアプローチの仕方が、多くの受講者に深い興味を抱かせたことが何よりも顕著にうかがえる。そうして、講習は中身が濃く、とても勉強になったという感想が多く見られ、好評を博している。

以上のように見てくると、各講習の自由記述欄からも、4つの講習が概ね好評であったことが明らかである。次年度以降も、人文学部として責任をもって、講習の事業に関わっていきたい。

運営委員の立場から

医学系研究科 西出りつ子

平成最後の医学系研究科の教員免許状更新講習は、ベテラン講師による4講習であった。本研究科は、「教育現場における健康」を考える上で重要となる内容の講習をそろえることが可能な本学唯一の研究教育部門である。麻酔・呼吸循環管理を専門とする医師、日常的に子どもたちの診療を行っている小児科医師チーム、受講者が自身のメンタルを見つめ直す機会を提供した臨床心理士、そして子どもたちを理解するためのコミュニケーションを受講者と考えた看護師・保健師と、保健医療専門職の教員が講師を務めた。定員増員のお願いを快諾していただいた講師の方々には、今年度もこの場をお借りしてお礼申し上げたい（講習の準備から成績入力まで、人数の増えた今年度の講習を丸ごとお引き受けいただき、心より感謝しております）。

4講習とも校種や職種を問わず募集したため、受講者は教育する子どもたちの年代が幼児から高校生まで幅広く、特別支援学校の教員の方や教育委員会勤務の方も参加された。一つのテーマについて、学校保健と自分の健康という二つの観点から1日じっくり考えていただいた。講習後の感想には、「わかりやすく、勉強になる内容」「今後の部活指導にとっても役に立つ」「現場に役立つ有意義な内容」と講習をよいととらえる記述が多かった。具体的には、「子どもの命を守るために大切なこと」「学校で起こり得る事故などについてより専門的に話して頂いた」「なぜなのかという所を全ての項目において詳しく学ぶことができた」「緊急事態に行う行動の意味を知った」「子どもたちに教えやすい、また自分自身が身につけていけないことが理解できた」などである。「熱心な話は生活に密着していてよかった」「生活に生かせる内容」「家族にも伝えたい話」など、ひとりの生活者としての感想もみられた。さらに、講習を教育現場に活かそうとする前向きな感想も多かった。例えば、「緊急時でも冷静に行動するための学習になった」「予防対策という観点が新しく勉強になった」「今後の教育活動に生かしていきたい」「園の職員に伝えていきたい」などである。

一方、「土日に講習が多かったのでよかった」という感想や、「朝の教室案内がありがたかった」と案内スタッフの配置と案内掲示を喜ぶ感想も複数みられた。これらは、会議や事務局が毎年検討を行い、実施可能な運営改善を行ってきた成果である。そして、講習をよりよくするための様々な要望もみられた。「講習場所がわからず迷った。わかりやすくしてほしい」「会場の机が小さく席も狭かった。もう少し広い机がほしい」「試験問題の配付回収を手際よくやってほしい」「遠方から参加する者には、当日メールをもう少し早めにしていただけると助かる」など、学習環境や運営面への改善内容である。また、「夏休みにもっと講習を増やしてほしい」という意見がある一方、「9月10月の講習を増やしてほしい」「夏休みのない保育園や子ども園は、違う時期にあると助かる」との意見もみられ、多様な受講者に対応することの限界も知ることになった。駐車場についても、「公共交通機関が無理な地域もあり、車で受講と駐車場の確保をお願いしたい」との切実な意見がみられた。今年度も駐車場の検討がなされ、制約付きではあるものの附属病院の駐車スペースの一部が使用可能となる日が準備されるため、来年度に受講される方は事務局からの案内を注視されたい。

最後に、教育を専門とする受講者の方々から、「実践も取り入れてもらい、とてもわかりやすかった」「グループワークが楽しかった」「参加型の講習だったので、最後まで楽しく集中することができ

た」「マイクを回していただいて意見が言えたのがよかった」「意見交換がたくさんできてよかった」など、参加型の学習に対してよい評価を得たことは講師にとって嬉しい限りである。教員免許状更新講習は、以前に受講した方の意見を踏まえた事前準備が事務局と当該委員によりなされ、当日参加した受講者全員と各講師が一体となって作り上げる講習である。この 1 日は、集団教育の場で働く教員を中心とする一期一会の貴重な出会いであるといえる。今後も関係者にとって有意義な講習になることを、そして受講者を通して子どもたちの健康に貢献できることを願っている。

学部担当の教員免許状更新講習を振り返って

工学部 小林 正

工学部の運営委員として平成 29・30 年度を担当した。平成 29 年度、工学部は 4 講習を担当した。担当学科は、機械工学科、電気電子工学科、分子素材工学科、情報工学科であった。結果は以下のとおりである。

- (1) 機械工学科 講習名：流れのシミュレーションとその応用

平成 29 年 8 月 18 日(金) 定員 10 受講申込者数 1 当日欠席数 0 履修認定者 1

- (2) 電気電子工学科 講習名：コンピュータのしくみ

不開講

- (3) 分子素材工学科 講習名：抗体や核酸上の情報について

不開講

- (4) 情報工学科 講習名：ビジュアル言語で始めるはじめてのプログラミング

平成 29 年 8 月 29 日(火) 定員 20 受講申込者数 7 当日欠席数 0 履修認定者 6

平成 30 年度も、工学部は 4 講習を担当した。担当学科は、電気電子工学科、分子素材工学科、建築学科、物理工学科であった。結果は以下のとおりである。

- (1) 電気電子工学科 講習名：コンピュータのしくみ

平成 30 年 9 月 8 日(土) 定員 20 受講申込者数 15 当日欠席数 0 履修認定者 15

- (2) 分子素材工学科 講習名：化学マスター講座 -生活の中の触媒化学-

不開講

- (3) 建築学科 講習名：巨大地震・津波災害にそなえる防災教育

平成 30 年 6 月 23 日(土) 定員 30 受講申込者数 29 当日欠席数 0 履修認定者 29

- (4) 物理工学科 講習名：最新のおもしろ理科教材

平成 30 年 9 月 29 日(土) 定員 30 受講申込者数 25 当日欠席数 1 履修認定者 24

平成 29 年度は受講申込者数の合計が 8 名であったが、平成 30 年度は 69 名に改善できた。

平成 30 年度の電気電子工学科の『コンピュータのしくみ』は、前年度、不開講になった講習と同じテーマであったが、募集内容の書き方を工夫したこと、近年の情報教育の必要性の高まり、受講者総数の増加などの理由により、15 名の申し込みがあった。

建築学科のテーマは、すべての教諭が対象となっていて、従来から多くの申し込みがある。

物理工学科のテーマは、小学校・中学校・高等学校の理科担当教諭が対象であるが、授業ですぐに利用できる知識であるので、25 名の申し込みがあった。

2019 年度も、工学部は 4 講習担当する予定である。工学部の教務委員会で議論を行い、

●ある程度の受講者数を確保できるような講習内容にして頂きたい

●授業ですぐ利用できるものにして頂きたい

との運営部会からの要望を伝えた。この要望は、各学科の教務委員を通じて来年度の担当学科に伝えられ、講習計画の立案の際に考慮される。

生物資源学部が担当した「選択講習」をふりかえる

三重大学大学院生物資源学研究科 成岡 市

Ⅲ. 成果と課題

2 運営部会委員の立場から

(1) 開講された4講習

①理科実験－物資の熱的性質

講師：教授 田中昌善 定員 20、受講者実数 7(充足率 35%)

開講：2018/6/24(土曜) 成績評価方法：その他(レポートの評価)

②海の哺乳類の生活と人との関係

講師：教授 吉岡 基 定員 20、受講者実数 20(充足率 100%)

開講：2018/6/24(日曜) 成績評価方法：筆記

③野菜を好きになってたくさん食べよう

講師：教職課程学習アドバイザー 齋藤俊彰

定員 50、受講者実数 49(充足率 98%)

開講：2018/7/29(日曜) 成績評価方法：筆記

④環境教育のための森林、木材の話

講師：教授 石川知明 定員 20、受講者実数 19(充足率 95%)

開講：2018/8/24(金曜) 成績評価方法：筆記

(2) 成果概要

1 講習につき各1名の講師数とした。公募時の定員は20～50名、定員に対する受講者の充足率は35%～100%であり、「講義、実験、豊富なスライド写真の紹介、講習資料の事前配布」などの工夫が受講者に高評価であった。

成績評価方法は、筆記式およびその他(レポート)であり、多彩な評価がなされた。受講者による評価(代表値)は3～4のうち高評価にあった。

担当講師は、生物資源学部の農学(自然科学系)分野の専門をもつ4名が選出された。

(3) 今後改善すべき事項

1) 1講習あたりの講師数、講習の特徴

教授・教職課程学習アドバイザー、60～50歳台、自然科学分野の講習などが実施され、受講者の評価(自由記述内容を含む)が高好評であったことから考えると、「各講習の講師

1 名、職階・年齢層に幅を持たせる、講習内容は生物資源学部で取り扱う内容」の条件で高評価を受けていた。

加えて、「講師の専門性を活かした内容、新規性のある内容、受講者の職場経験が活かせる内容が用意された」ことに対して高い評価を受けていた。

2) 定員に対する受講者の充足率について

講習課題によって受講者の充足率に増減が発生する可能性はあるが、講習の定員を 20～50 名としながらも、受講者からの講習課題に対する改善要求はなかった。

受講生の自由記述から、生物資源学部における教育・研究の特徴を強化することが受講者の好奇心を高揚させることができると理解できる。

3) 成績評価の方法について

「筆記式、レポート」の成績評価が実施された。これらの評価方法によって受講者の理解度を把握することは可能と判断した。

4) 総合的改善について

生物資源学部の講師の人選は、学部長の委任を受けた「教職課程・学芸員養成課程運営委員会」が担当した。この委員会による情報共有あるいは改善検討の仕組みにより、教員免許状更新講習の組織的な対応に効果があげられた。

運営部会委員の立場から

三重大学教養教育院 川向 洋之

2018 年度、教養教育院では、5 名の教員が下記の教員免許状更新講習を担当した。

- ① 6 月 16 日, 川向 洋之・肥田野 久二男, 解析学を楽しむ ― 級数, 積分の広がり― (選択)
- ② 6 月 30 日, 川向 洋之・肥田野 久二男, 解析学を楽しむ ― 級数, 積分の広がり― (選択)
- ③ 7 月 1 日, 須曾野 仁志・南 学, 教育の最新事情 6 (必修)
- ④ 7 月 7 日, 南 学, はじめてのゲーミング (選択)
- ⑤ 7 月 28 日, 南 学, はじめてのゲーミング (選択)【東紀州】
- ⑥ 7 月 29 日, 富樫 健二, 子どもの運動と健康 (選択)
- ⑦ 8 月 20 日, 太城 康良, アクティブ・ラーニング TBL (Team-Based Learning) 体験 (選択)
- ⑧ 8 月 21 日, 富樫 健二, 子どもの運動と健康 (選択)【東紀州】
- ⑨ 8 月 30 日, 太城 康良, アクティブ・ラーニング クリッカー&プラカード体験 (選択)
- ⑩ 10 月 21 日, 富樫 健二, 子どもの運動と健康 (選択)
- ⑪ 10 月 21 日, 下村 智子, 世界の教育事情 (選択)

このうち、データのある①, ②, ③, ④, ⑥ で「教員免許状更新講習受講者評価書」の「Ⅰ. 本講習の内容一方法について」の総合的な評価、「Ⅱ. 本講習の成果について」の総合的な評価、「Ⅲ. 本講習の運営面(受講者数、会場、連絡等)についての評価」の平均を取ると、それぞれ 3.59, 3.57, 3.59 であった。評価が4段階なので、大多数の受講生が「よい(十分満足した・十分成果を得られた)」または「だいたいよい(満足した・成果を得られた)」と評価したようである。

以下、①, ②, ③, ④, ⑥の自由記述欄に基づいて、各講習を簡単に振り返っておく。

① 解析学を楽しむ ― 級数, 積分の広がり― (受講者数 7 名)

「数学の知識がふえました」、「とても良い対応をしていただきました」「勉強になりました」等のコメントが見られ、概ね満足してもらえたと思われる。

② 解析学を楽しむ ― 級数, 積分の広がり― (受講者数 5 名)

「久しぶりに高度な数学に触れ、新鮮であった」「久しぶりの大学数学、面白さを感じた反面、難しさと高校数学を大分忘れてしまっていることをひしひしと感じました」等のコメントが見られ、講習を受けてリフレッシュしてもらえたのではないかなと思う。

③ 教育の最新事情 6 (受講者数 80 名)

「今の教育事情をたくさん教えていただき、とても参考になりました」「学校現場の課題となっていることを題材に講習が行われていたのがよかった」「教員という人種がおちいりがちなポイントでお

さえて頂いたと思います」等のコメントがあり、学校現場で直面する課題を反映した講義であったことがうかがえる。また、「冗談などもあり、ユニークな方（講師）でよかった」等の講師の先生の人柄を褒めるコメントも見受けられ、講師の質の高さも感じられた。

④ はじめてのゲーミング（受講者数 32 名）

「いろいろなゲーム形式や、その狙いを、丁寧に解説して頂き大変勉強になりました」「実際にゲームをさせて頂いたり、学校で使えそうなゲームの実物を持ってきて下さっていたのがありがたかったです」「今日体験させていただいたことはさっそく現場でもゲーミングに取り組んでみたいと思いました」等のコメントが多く、すぐにでも現場に役立つ講習だったことがうかがわれる。この他にも「楽しかった」「自分が他の先生から相談されたら必ずすすめたい」とのコメントが多数あり、多くの受講生に満足してもらえたようである。

⑥ 子どもの運動と健康（受講者数 20 名）

「子どもの体力、健康についてよくわかりました」「運動する事がいかに大切か教えていただき、ありがとうございました」等のコメントがあり、有意義な講習だったことがうかがえる。また、「グループワークでいろんな校種の先生の話聞いたのはすごく深かったです」「講習内容が興味深く、先生の話が分かりやすく良かったです」等のコメントがあり、講師の工夫や準備の良さが感じられた。

以上のように、どの講習も概ね好評であった。次年度以降もこのような評価を頂けるよう、鋭意努力していきたい。

講習担当講師の立場から

三重大大学教育学部理科教育講座 栗原 行人

今年度、2つの選択講習「東紀州で学ぶ地学」「小学校で使える地学」を担当した。いずれも天文分野担当の伊藤信成先生との2名で担当し、午前午後で担当を交代した。地学分野は小学校理科のうち、苦手とする教員が多いことで知られている。そうした方を主な受講対象とし、授業ですぐに使える知識や実験・観察方法を提供することを目的として、いずれも新規に開設したものである。私の担当である地質分野の講習では、野外に出かけて実際に地層や岩石の観察をすることがベストであり以前の講習ではそうしていたのだが、観察地までバス移動が必要で時間がかかることや雨天時のことを考えて今回は講義と室内実習を行うことにした。

「東紀州で学ぶ地学」は今年度より開始された東紀州教育学舎での更新講習の一つとして開設されたものであり、地学の観点から東紀州の地域性を扱った講習である。東紀州の地質の成り立ちを解説し、尾鷲の約1700万年前の貝化石や熊野の約1400万年前の巨大カルデラ噴火に伴って形成された岩石などの標本を観察してもらい、どこでどのような地層や岩石が観察できるのかを説明し、受講者各自が観察できるような情報を記載した資料を配布した。本講習では定員20名のところ受講者数は17名であった。受講者からは「身近な河原を使ってすぐに授業で使えそうで良かった」、「地学分野は重要ではあるが研修の機会が少ないので良い勉強になった」など好意的意見が多かったが、認定試験（実技）として実施した岩石鑑定試験が難しかったという意見も複数見られた。講習全般に関しては、「東紀州地域での講習を増やしていただきたいです」や「来年度以降も継続して東紀州地域での開講をお願いします」という意見が目立った。

「小学校で使える地学」は上浜キャンパスで開講された講習である。小学校理科の地学（地質分野）での観察・実験例を紹介し、カラーサンドを用いた堆積実験、那須塩原産の木の葉石（植物化石）を用いた地層と化石の観察などを行った。本講習では定員は20名のところ受講者はわずかに2名であった。この不人気の原因は不明であるが、小学校の先生に受講してもらいたいと考えてつけたタイトルに問題があったのかもしれない。内容的にはニーズはあると考えているので、来年度はタイトルを変更して再挑戦する予定である。受講者からは、「実際に現場で活用できる道具やWebを教えてもらえてよかったです」、「自分の苦手な分野でしたが、午前も午後も面白く、自分でも理科が楽しめると感じられたのが嬉しかったです」という感想を頂いた。

今後の課題としては、認定試験の方法と内容が挙げられる。認定試験では実技として岩石鑑定試験を行ったが、理科を専門としていない小学校教員にはやや難しい内容だったので改善していきたいと考えている。

更新講習を受講して

三重大大学教育学部附属小学校 石川 愛

本校での職務に関わって、以下の講習を受講した。現在、またはこれから求められる教員として必要な資質能力について考えたり身に付けたりすることのできる貴重な機会となった。

【必修】教育の最新事情 7

教育実践の改善のヒントとして、ドイツ・アメリカ・東アジアの学校・教育から学び、日本のよさや課題を考えることができた。学力の向上に関しては、フィンランド・上海・ドイツの取組からポイントを整理することができた。また、時代や学習理論の変遷から、不易と流行のものをまとめたり、心の教育の推進から、自己肯定感を高める取組についても学んだりすることができた。

【選択必修】学校における危機管理について

実際に起きた事件から、学校安全に関する具体的な取組を考えることができた。現在、地震や津波等の防災意識は高まり、避難訓練もいろいろなパターンで行っているが、防犯も同じようにリスクマネジメントやアセスメントについて考えていかなければならないと改めて必要性を感じた。さらに、「同調の実験」「傍観者効果」等から、危機的な状況での人の心理につなげて理解することができた。また、「マネージャー・ゲーム」をしたことによって、組織で協力することと情報伝達の大切さと難しさを実感することができた。

【選択】子どものコミュニケーション能力を育てる

対人コミュニケーションの心理学を学び、様々なゲームを体験しながら、自分の学級で実践することを想定して指導案の作成をした。自己紹介・上手な聴き方・〇×・依頼断るゲームは、小学生でもすぐできそうで、とても分かりやすかった。どの「ありがとう」？等では、シチュエーションに合った声かけについて考えることができた。また、様々な立場の方が参加していたので、ジグソーやシェアリングで、視野が広がり、新しい気づきをすることができた。

【選択】造形表現法の探求（対話としての表現・重ね刷り版画制作）

前半は、表現で対話していくということのおもしろさを体験することができた。特に、大きな紙に大きな筆で描いていく墨絵では、仲間の表現を受けて自分の表現を加え、1つの大きな木にしていく中で、たくさん思考し、仲間・表現・作品・自分との対話が全て盛り込まれていた。

後半は、ゴム版を使つての重ね刷りを体験することができた。ゴム版自体はやわらかくて彫りやすく、彫刻刀を使い始める中学年によいと思った。また、ゴム版の両面を彫って重ねて刷るという技法は、見通しをもちながらたくさんの工夫ができるため、高学年によいと思った。

【選択】映像メディア表現（図工・美術）

コンピュータ等の情報機器やそれによる表現は、今の子どもにとって身近なものであり、図工でも表現や鑑賞の活動で使う用具や題材の一つとして取り扱われている。しかし、自分が子どもの頃にそのような機器がなかったため、まずは自分が3DCGを体験し、映像メディアで表現することの楽しさを味わうことができた。学校現場では、ハード面と自分の指導力がなかなか追いついていない現状はあるが、子どもの表現の可能性を広げるために環境整備や教材研究をし、いろいろな引き出しを持っておくことが大切だと感じた。

教員免許状更新講習を受講して

三重大学教育学部附属中学校 大木 栄

今年度7月から10月にかけて、三重大学での教員免許状更新講習を受講させていただいた。講座数がとても多く、内容也多岐にわたっており、どれを受講するか迷ったが、教科教育の指導力を向上させていきたいとともに、キャリア教育や特別支援教育への理解をさらに深めていきたいと思い、以下の講習を選択した。

【必修】教育の最新事情 12

【選択必修】節目でキャリアをデザインする方法

【選択】公民経済分野の基礎と要点

【選択】自然地理学の基礎

【選択】フィールドワークからみる三重県の姿

ここで学んだ最新の理論や実践成果は、日々の教育活動においてすぐに活用していけるものばかりである。たいへん有意義な講習であったが、紙面の関係上ここでは、個人的に印象に残った二つの講習について報告する。

「【必修】教育の最新事情 12」では「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」について学ばせていただいた。「前頭葉」では実行機能、抑制、セルフコントロール、社会性、感情理解、運動、注意・集中、短期記憶が、「頭頂部」では感覚処理が、「後頭部」では視覚処理が、「側頭部」では聴覚処理が、それぞれ行われているというのだ。いわゆる「発達障害」とは「脳」の機能障害であり、その各機能を「リハビリ」させることが「特別支援教育」なのである。脳科学について不勉強であった身としては、とても印象に残る内容であり、かつ非常に納得のいくものであった。また、ハーシという研究者が「なぜ非行化しないのか」に着目して「4つの絆(bonds)」すなわち「愛着(主に親・教師に対して)」「努力(課題に挑戦する)」「多忙(できることを増やす)」「規範意識(ルールを守る意識)」を形成することが大切であると主張しているが、これなどは以前から日本の教育現場(学級経営や部活動の指導など)で実践されてきたことである。これまでの指導の有効性を再確認することができたことは、大きな収穫であった。

「【選択】自然地理学の基礎」では、例えば「後背湿地」や「三日月湖」のような、これまでに自分が学び、かつ子どもたちに教えてきた自然地理学的事象が、実はごく身近に存在しているということを、フィールドワークを通して体験的に理解させていただいた。教科書や資料集で自然地理学的事象を学ぶ場合、全国的に有名な事例が取り上げられる。しかしそれだと、どうしても事象との間に心理的な距離が生じてしまい、問題を自らに引きつけて主体的に学ぼうとする意欲が減退してしまう。私自身、そのような経験をしてきた者の一人であるが、今回の講習では、フィールドワークを通して自然地理学的事象を身近に感じ、とても楽しく学ぶことができたのである。身近な事例が持つ力強さ、その事例を取り上げることの重要性を実感することができたので、今後は「身近な事例」を取り入れた授業作りと実践を積極的に行っていきたい。

教員免許状更新講習を受講して

三重大学教育学部附属特別支援学校 坂本 知穂

今年度6月から9月にかけて三重大学で開催された教員免許更新講習を受講した。その中で学んだことや、感想を簡潔に記述する。

◇【必修】教育の最新事情1

日本におけるインクルーシブ教育の現状や、重症心身障害児を取り巻く教育環境の実態について学んだ。また、講義の中でとろみをつけた飲料の試飲や、それを用いて受講者同士で食事介助の体験を行った。講義の内容や、このような体験的な活動を通して、教育現場での支援のあり方について考えることができた。

◇【選択必修】三重県の特別支援教育の課題

講義および参加者同士のグループ討議で、三重県の特別支援教育についての考えを深めることができた。授業者である郷右近先生が県内の学校を巡回して感じていることについての講義や、幼稚園・小学校などの校種の先生方が実際に特別支援の対象となる子どもとどう関わっているのかという話を聞くことを通して、特別支援教育を様々な方向から考えることができた。

◇【選択】重症心身障害児の療育

重症心身障害児とその家族の実態に関するビデオを見たり、その内容を元に参加者同士でグループ討議を行ったりした。特別支援学校に勤務していても、校種が違うことによってなかなか知ることのできない、重症心身障害児の生活に関する実態を知ることができ、また他校種の先生と意見交換をする中で、改めて重症心身障害児・者を取り巻く課題について考えることができた。

◇【選択】音楽のしくみと表現

簡単な楽曲分析についての講義と、グループで課題曲のアレンジを行い、演奏・発表する実技を行った。同じ曲でも伴奏や、強弱の付け方の変化により印象が変わることを感じ、また曲の表現のしかたにどのような意味があるのかを学ぶことができた。また、実技のグループワークを通して、同じ曲のアレンジでも、人によって、またグループによって表現しようとするものの違いを感じることで面白さを感じた。

◇【選択】生きたリズムのしくみ

リトミックの基本的な活動や、ボールなどを用いて、身体全体を使ってリズムを感じ取り、表現する活動を行った。活動の中で、普段旋律リズムを刻むのにあまり用いない、利き手でない方の手や足を使って旋律リズムを刻む活動を行い、音楽が「できない」と感じてしまう児童・生徒の気持ちを疑似体験できたのではないと思う。リズムや拍を感じるのに、ただ音楽的な活動を行うだけでなく、身体全体を使ってリズムを感じる活動は、今後の音楽の授業の中でも取り入れていきたいと感じた。

これらの講義を通して、これまでの教員生活でなかなか気付くことのできなかつた課題に気付くことができ、また授業を行う中で悩んでいたことの解決のヒントを得られたと思う。教師として課題意識を持って学び続けることの大切さを改めて感じることができた。

6 事務の立場から

学務部教務課長 山内 敏博

平成 30 年度の三重大学教員免許状更新講習は例年とは大きく様子の異なる 1 年となりました。まずは制度設計上の制約から受講者対象者数が例年の約 1.7 倍と予測されており、本学では延べ 4,833 人（昨年比約 1.5 倍）が受講しました。そして新しい試みとして平成 30 年度から東紀州地域にて更新講習を開設しました。平成 28 年 11 月に開設された三重大学東紀州サテライト東紀州教育学舎を主会場として、東紀州地域の方が手軽に受講できるよう計 12 講習を開設、延べ 268 人が受講し、受講者アンケート等でも良い評価をいただきました。

一方、良いことばかりの 1 年ではありませんでした。上述した受講者数増への対応と東紀州地域での講習開設に伴い、講習日も昨年度の 15 日程から 27 日程に増やした影響もあり講習日に台風が接近することが度々ありました。幸いにも受講者に大きな負担が掛かってしまう休講措置には至りませんでしたが、講習を途中で中断し、翌日に延期した講習もあり、受講者の皆様にご迷惑をお掛けした講習もありました。ただ、このような緊急事態の中でも 1 講習も休講せずに無事に全ての講習を終了できたのも、担当講師の先生方、そして講習運営にご尽力いただいた教員免許状更新講習実施委員会の皆様、学務部の皆様、多くの関係者のお力添えのおかげであり、ここに厚く御礼申し上げます。

さて、更新講習は制度開始から今年度で 10 年目となり、第 1 クールの最終年度となる節目の年でもありました。来年度からの第 2 クールでは旧免許状所持者の第 1 グループの方が 2 回目の更新講習を迎えることとなります。2 回目の更新講習を受講される方が、「10 年前にも同じような講習内容だった」と思うことがないよう、講習内容の見直しや受講に掛かる利便性向上等の準備を進めております。

また、平成 31 年度も引き続き東紀州地域での更新講習を開設予定で、規模も平成 30 年度とほぼ同等で行う予定です。「東紀州で更新講習をやってもらえてとても助かった。」、「引き続き東紀州地域で更新講習をやってほしい」という声をたくさん頂いており、受講者の皆様にとって更に有意義なものとなる様、これからも地域貢献大学の取組として県内の皆様が受講しやすい講習の実施にも努めたいと考えております。

そして、平成 31 年度は上浜キャンパスにおいて三重大学附属病院職員駐車場の一部を、土曜日と日曜日のみ有料（1 日 800 円）ではありますが、受講者用駐車場としてご利用いただけるようにしました。これまで交通手段は公共交通期間のみとしており、一部の受講者の皆様には大きなご負担をお掛けしておりましたが、渋滞等の課題に対応する必要はありつつも受講者用駐車場の活用により利便性の向上に繋がるかと思っています。

最後に、今年度は受講者増や東紀州地域での講習開設、台風の直撃など様々な課題対応に追われた 1 年となりました。来年度は、第 2 クールとなり 2 回目の更新講習をする方の受講がスタートすること、受講者用駐車場の利用開始など、引き続き慌ただしい 1 年となることが予想されております。そのような中でも一人でも多くの受講者が本学の更新講習を受講してよかったと思っていただけるよう努力してまいりますので、今後ともご協力の程、重ねてお願い申し上げます。

おわりに ―お互い学び続ける講習に―

三重大学教育学部教員免許状更新講習委員会委員長 佐藤 年明

2009 年から始まった三重大学教員免許状更新講習は、本年度で 10 年目の講習が無事終わりました。講習に関わりご協力いただいた皆様のおかげです。ありがとうございました。

学校現場での教員の多忙や超過勤務の問題は大きな社会問題であり、そんな中で教員免許の更新の年になり、体に鞭打って 5 日間の講習に参加している方々が多くなっています。また、三重県内では、地元の大学ではなく、e ラーニングや通信での更新講習に参加する率も高くなっていると聞きました。そんな中で、私たち講習を企画・運営・担当する側として大切なことは、学校現場で取り組むべきことや新しい課題を更新講習の内容として取り入れたり、学校現場や講習参加者の方々の立場から講習方法を改善することだと考えます。

私自身、三重大学在職 30 年の最後の 3 分の 1 の 10 年間、更新講習の講師を担当してきました。当初は個人的には、このような形での教員研修が本当にふさわしいのかという疑問、新たな仕事が増えることへの負担感、「受けさせられる」感が強い受講生からの様々な不満に接して言えないけれども「こちらが好きでやっているわけではない」と肚の中で思ったりと、正直精神衛生上あまり良くないスタートでした。しかし一方、自分自身の教育実践研究の中で学校現場とのコンタクトがなかなかスムーズに取れないという悩みも抱えていた中、6 時間の更新講習で幼小中高特支の先生方が日ごろ感じておられることをうかがい、ささやかな相互交流もできることが私自身の実践研究にとって新たな励みになりました。土日出勤は体力的にきついものがありましたが、仕事の内容としてはだんだんと充実感を持つようになりました。

第 2 ラウンドの 10 年に入っていく免許状更新講習ですが、その節目を前に私は三重大学を去ります。新しい職場でも、この 10 年の経験を活かして教員研修に微力を尽くしていきたいと考えています。

在任最終年度に、委員長として何ほどのこともできなかったことを申しわけなく思っています。三重大学で開催される免許状更新講習がより充実し、学校現場に支持されるものとなることを期待しております。